2014 年 7 月 1 日

青森大学ニュース No.26

未来への可能性を拓く大学へ

学長　崎谷康文

はじめに

青森大学は、「青森大学ルネッサンス」を掲げ、大学の運営、教育研究、社会貢献など大学の活動全般にわたる改革を進めている。「青森大学ルネッサンス」は、青森大学の再興と新生を目指し、時代を先取りし、未来への展望を見据えて、大きな目標へ向かって、計画に沿い、点検・評価そして改善を図りながら、一歩一歩改革を進めていく運動であり、どこかで完結してしまうものではない。未来はいつも今より先にある。目標や計画は、常に刷新されていく。未来を見つめて全学が一致協力して努力を続けていくことが何よりも重要である。改革が常に前向きに進む必要がある。

「青森大学ルネッサンス」の大きな柱は二つある。第一に、本学の建学の精神を受け継ぎ、「地域とともに生きる大学」へさらに発展させていくこと、そして、「学生中心の大学」を構築していくことである。

未来へ向かって前進し続け、未来への可能性を広げていきたい。予測困難な時代である２１世紀において、青森大学が使命を果たしていくためには、「青森大学ルネッサンス」の推進により、「未来への可能性を拓く大学」としての成果を高めていくことが必要である。

課題意識を共有すること

青森大学が基本に立ち返り、現状をしっかり把握して、未来へ向けて改革を進めていくためには、すべての教職員が課題意識を共有することが必要である。改革を推進するためには、まず、現在、青森大学は危機にあること、したがって、改革をしなければならないことを教職員すべてが強く認識しなければならない。二番目には、教職員すべてが改革のために「全体としてそして自分は具体的に何をしなければならないか」を確認することである。三番目には、教職員すべてが改革に実際に参加し、行動することが必要である。しかし、それでも改革が進まないとすれば、「面倒だ、自分が動かなくてもいいだろう」という意識を持ち、行動しない人がいるからである。これについては、すべての人が「改革に参加することは自分にとってもプラスになる」ことを自覚して、意識を高めていき、浸透を図ることが肝心である。

改革へ向けて課題意識を共有し、すべての教職員が参加する改革が一歩一歩進んでいることは間違いない。しかし、なお一層努力を続ける必要がある。

大学を取り巻く環境の厳しさ

我が国の人口は、減少傾向にある。平成２５年１２月の人口は１億 2,585 万４千人であり、１年で２２万人の減少である。うち、６４歳までが１３２万人の減、６５歳以上が１１０万人の増である。高齢化社会が進展している。そして、晩婚化、未婚化、少子化などが進み、出生率が低下している。

平成２５年１０月の人口を年少人口（０～１４歳）、生産年齢人口（１５～６４歳）及び老年人口（６５歳以上）に分けると、全国では、それぞれ１２．９％、６２．１％、２５．１％であるが、青森県は、１１．９％、６０．２％、２７．９％である。青森県は、平成２５年の出生数は、９，１２６人で、少子化が著しく、生産年齢人口が減り、高齢者が増えている実情が如実に示されている。年少人口、生産年齢人口及び老年人口は、東京都が１１．３％、６６．８％、２１．９％で、神奈川県は１２．９％、６４．７％、２２．４％であり、生産年齢人口が東京を中心とする首都圏に集中している傾向が分かる。

本年５月に「日本創成会議」（増田寛也元岩手県知事、元総務大臣が座長）の人口減少問題検討分科会が発表した、「消滅可能性都市」は衝撃的であった。これによれば、２０１０年から２０４０年までに、２０歳から３９歳までの女性人口が５割以下に減少する地方自治体「消滅可能性都市」が全国の４９．８％に当たる８９６市区町村である。このような市町村が８割以上占めるのが、青森県、岩手県、秋田県、山形県及び島根県の５県である。

大都市圏への人口流入は増大しており、地方から大都市への若者の流出を食い止める必要がある。そのため、青森県をはじめ地方にあっては、若者に魅力のある、住みたいと考える、地域活性化の施策を進める必要がある。我が国が将来にわたり均衡のとれた発展を遂げていくためには、東京一極集中を是正し、地域の特色ある資源を活用した魅力ある街づくりを進めることが急務である。

地域社会の再生・活性化の中心となる

地方の再生・活性化のために、地方の大学が果たすべき役割は極めて大きい。大学は、所在する地域と密接な交流をしつつ発展しなければならない。青森大学は、青森県の県庁所在地である青森市に立地し、青森県を拠点として発展してきた。青森大学は、設立当初から「地域とともに生きる大学」であり、これが最も重要な使命である。

大学は、学術の中心であり、学術に国境はないから、全国から、世界各国からの学生を受け入れるのが本来の在り方である。青森大学は、留学生を受け入れ、北海道から沖縄県まで多くの都道府県出身の学生が入学している。しかし、現実には、青森県の高校を卒業した学生が６割以上であり、就職先も４割以上が青森県の企業・地方公共団体等に就職している。

青森大学は、「地域とともに生きる大学」として、青森の未来を切り拓く推進役を担わなければならない。

地域社会の未来への可能性を拓く

―青森県をはじめとする地方公共団体との連携

青森県は、平成２５年１２月、平成２６年度から平成３０年度に取り組むべき成長戦略を「青森県基本計画　未来を変える挑戦」にまとめ、２０３０年の「生活創造社会」実現を目指して、総合的、体系的な施策を進めている。青森県の自然・文化・歴史・観光・生活をはじめとする地域資源や産品、技術、サービスなどが有する価値を生かし、青森県の各市町村や地域の価値と豊富な人材の価値を生かして、ビジネスの対象としても、観光・交流の対象としての価値及び生活対象としての価値を備える、「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」の青森県の確立を目指している。青森市をはじめ各市町村も、中長期の計画を策定し、人口減や経済の低迷を克服するための計画的な対策を進めている。

青森大学は、地域社会に貢献し、「地域とともに生きる大学」として、教育研究、社会貢献の活動を

通じ、地域社会で活躍できる人材を育成し、地域の経済、社会、文化の向上に資することを使命としている。青森市で最も伝統がある大学として、経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部及び薬学部の文系、理系がそろった強みを生かし、地域との連携協力を推進していかなければならない。

既に、青森市とは平成２６年１月に、平内町とは平成２６年３月にそれぞれ包括的連携協定を結んでいる。平成２５年４月には、青森県教育委員会との連携協定を結んでおり、中・高校生の薬剤師体験事業、高校生科学研究コンテストなどの事業を行っている。さらに、平成２５年７月に青森商工会議所と連携協定を結び、平成２６年４月、青森県中小企業家同友会と連携協定を結んだところである。

青森大学は、地域再生の中核的な拠点（センターオブコミュニティ）となることを目指し、多彩な事業を展開している。青森県における地域課題は、大きく３つの課題として捉えることができる。これらの課題と、これらの課題に関し、青森大学が取り組んでいこうとしているプロジェクトのテーマを整理すれば、次のとおりである。

１　地域コミュニティの人口減少や少子高齢化の進行などの課題
　① 地域コミュニティの自治機能の強化
　② 地域の防災力の向上
２　短命県を返上し健康長寿社会を築いていくための課題
　③ 薬剤師、精神保健福祉士など医療・福祉人材の育成
　④ 健康情報の普及・浸透方策
３　地域の経済社会の活性化や文化・観光など魅力の発信に関わる課題
　⑤ 中心市街地のにぎわい創出
　⑥ 北海道新幹線開業活用による魅力の再発見・創出
　⑦ ねぶた祭における生活文化と観光の両立・充実化策

さらに、これらを横断的に捉え、取り組むべきテーマとして、①地域課題に関し、生活実態や意見などのアンケート調査を定期的に実施すること、②地域資料の収集と共有化を図ること、③各テーマについて、改善を進めていくための協働エンジンを構築し開発して、地域と大学の積極的な連携による機能を発揮していくことがある。これらを総合的に推進して、「共生型地域社会あおもり」を創っていくことが、地域再生の中核的な拠点としての青森大学の使命であると考える。

加えて、情報技術を生かし、ビッグデータの有効な利用法や観光プログラムを開発したり、営業や経理に関わる人材の育成や企業経営の在り方についての情報や意見の交換などにより地域産業の活性化を進めたりするなど、青森大学の強みを生かし、地域の再生・活性化に役立つ事業を展開することは、様々に考えることができる。

人口減社会における入学者増へ向けて

我が国の大学への進学率は、ＯＥＣＤ諸国の平均より低く、また、東北地方や九州地方は、さらに進学率が低迷している。青森県の平成２５年３月の高等学校卒業者 13,330 人のうち大学、短期大学等へ進学した者は、5,520 人で４１．４％である。これは、極めて低いと言わざるを得ない状況であり、青森県そして日本の未来にとって憂慮すべき事態である。しかも、そのうち県外の大学、短期大学へ進学した者は 3,103 人である。低い進学率の上に県外への流出が半数をはるかに超える。高等学校卒業者のうち専修学校（専門課程）へ進学した者は 2,054 人で、１５．４％である。

このような状況は、青森県の大学として深刻に受け止める必要がある。進学率が低いことは、地域

の経済の状況から親の経済的支援が十分得られないことが影響している。しかし、県外への流出が多いのは、県内の大学の魅力が認められていないことが一つの理由である。経済的には多少苦しくても、進取の気持ちで関東等の大学で学ぼうと考える若者がいることも当然であるが、青森大学はじめ青森県内の大学がそれぞれ充実した教育を行っていることをもっと発信していく必要がある。

青森大学は、１８歳人口の減少に直面しながら、これまで以上に多くの入学者を確保していく努力をしなければならない。進学率が低いこと、県外流出が多いことは、危機であるが、青森大学の魅力を高め、しっかり発信することによって、この危機を好機（チャンス）に変えていかなければならない。

１８歳人口が減っていく中でも進学率が向上すれば進学者は大きくは減少しないし、県外への流出者を引き戻すことができれば青森県内の大学への入学者は増える。このような視点に立って、待ったなしの努力を続けるべきである。

社会人の入学者や編入学者についても、一層の増加が必要である。我が国は学歴社会と言いつつ、高校を卒業し、また、大学を卒業して、社会人となって後、学び直して、能力を高めようとして大学に入学する人が少ない。ＯＥＣＤ諸国の統計では、日本は大学学部の入学者の８割以上が１８歳であるが、ＯＥＣＤ平均では、入学者を若い人から数えていくと、８割になるのが２５歳くらいになり、例えば、オーストラリアでは、２７歳になる。２５歳以上の入学者は、我が国は２％、ＯＥＣＤ平均では２０％である。

高卒後社会人になった人、専門学校等で学び社会人となった人などが、社会の変化や技術革新が著しい状況を乗り切るには、大学で学び直して、能力を高め、また、新たな人生を切り拓いていくことができることをもっと知ってもらう必要がある。そのような人が増えることは、地域の人材の厚みを増し、地域社会の活性化へもつながる。青森大学は、社会人の学び直しに適した大学にならなければならない。

学生の未来への可能性を拓く

いかにして青森大学の魅力を高めていくかが大きな課題である。この課題に対し、青森大学は、「青森大学ルネッサンス」を掲げ、果敢に取り組んでいる。平成２５年度に基礎スタンダード科目を構築し、カリキュラムと教育方法の改革を進めている。平成２６年度から地域貢献基礎演習を導入し、青森の豊かな自然と文化の中で、地域社会との交流を図りながら、①生涯をかけて学び続ける力、②人とつながる力及び③自分自身を見据え確かめる力の３つの力を備えた学生を育てている。さらに、シラバスの改革、ＧＰＡ（Grade Point Average）の導入、ナンバリングの設定、ルーブリックの導入を進めている。学習支援センターや集いのスペースの機能を充実させるとともに、学生の主体的な学びの能力を引き出す親身な指導を行い、未来を拓く実践力を身に付けさせていくことが重要な課題である。

基礎スタンダード科目は、平成２６年度からは、昨年度の教養コアと技能コアに加え、創成コアの３つの枠組みによって進めている。確かな教養を身に付けさせるための教養コアの「学問のすすめ」「人間と文化」「社会と環境」についても昨年度の実績を踏まえ、新たな観点での取組みを進めているし、「基礎演習」については、共通のテキストとして新たに「学びの道しるべ」を作成して授業に活用し、学び方の基礎をしっかり身に付けさせるようにしている。青森大学の強みは、文系、理系の４学部がそろっていることである。多様な興味関心、個性、能力などを持った学生が切磋琢磨して、

基礎力を高め、専門科目の学びへ入っていけるよう、今後とも、教育改革を継続していきたい。

各学部の専門科目は、１年生から系統的に設定され、理論から実践まで高く深い専門性を身に付けさせるようにしている。各学部とも、資格や教員免許等につながる、社会に役立つ実践的な教育を行っているのが、青森大学の特色であり、他の大学等に対して優位性を保っているところである。青森大学の各学部は、担任や演習の担当の教員を中心に、学生の相談等に気軽に応じ、コミュニケーションを大事にして、親身な指導を行っている。基礎スタンダード科目は、全学の協力により実施されているが、各学部の学生は、１年生から、所属する学部の教員との密接な交流ができるようにしている。

各学部のコース等における専門科目については、今後、全学のカリキュラム・ポリシーの下、基礎スタンダード科目との連携を適切に図りつつ、合理的に整理しつつ、全学的な体系化を格段に進める必要がある。

教育内容と教育方法の改革は、時代の進展を見据えつつ、未来を先取りするように常に進展させることが必要である。大学は、毎年同じことを変わらず教える場ではなく、学生本位の立場に立って、社会に出て、未来を拓く実践力を身に付けさせる教育を行う場である。予測困難な時代にあって、教えられた知識や技術を使いこなせるというだけではなく、未知の課題に挑戦できる力を身に付けさせるのが大学の重要な使命である。大学は、単に職業のための知識や技術を伝授する場ではなく、人間性と確かな教養を基盤として、専門性を深める教育を行い、学んだ知識や技術を駆使して、答えのない問題や想定外の課題に挑戦していける幅広い応用力を培う場であり、２１世紀の社会をたくましく生き抜くことができる人間を育てる使命を有している。そのような意味で、青森大学に入学し４年間あるいは６年間の教育を受けることにより、学生の未来への可能性は大きく広がっていく。

青森大学で始まっている教育の改革は、学生の未来への可能性を大きく伸長させるものであり、卒業後、変化する社会の中で学び続け、専門性を生かしながら、様々な状況に対処できる汎用能力を身に付けることができるようにするものである。

このような大学の役割が確実に認識されるようにして、大学への進学率を高めていくことが急務である。このためには、高校との連携、接続をこれまで以上に密接にして、高校教員、高校生、高校生の保護者に対し、大学へ進学することは未来の人生を拓く意義があり、青森大学で学んで、可能性を広げ、大きくはばたいていくことが、生徒のこれからの人生にとっても、青森県や日本の未来にとって大切なことであることを伝えていく必要がある。

大学自らの未来への可能性を拓く

以上述べてきたように、人口の減少や地域の経済社会の低迷等の中で、大学は、厳しい環境に取り囲まれている。しかしながら、危機を好機ととらえ、積極果敢に挑戦していけば、未来が開ける可能性が生まれ、大きくなる。自ら努力することが肝心である。幸いに、青森大学は、青森県、青森市等広く地域社会から信頼され支援されてきている。これからも、いわばオール青森の期待に応えられるよう、青森大学としての格段の改革努力を示し、存在感を高め、魅力の向上を図っていかなければならない。地域社会の進展にとって、青森大学がなくてはならない存在であることが、明確に認められる必要がある。地方公共団体、地域の経済団体、高校等と広く連携協力を進めながら、教育研究等の改革を継続し、地域の人材育成、地域の再生・活性化に対し、青森大学が大きな貢献をしていくこと、それによって、青森大学自体の未来への可能性を拓いていくことがどうしても必要である。

学長の活動（平成２６年１月～６月）

［随筆・評論等］

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」

第２２回「正月の気分」　第２３回「新渡戸稲造から学ぶこと」

第２４回「心の復興へ」　第２５回「学問の方法」

第２６回「花の季節がめぐりきて」　第２７回「住大夫さんの引退」

評論「学びの温故知新」

第２１回「教育方法の重要性」　第２２回「辞書とマニュアル」

第２３回「自分探しと自分づくり」　第２４回「人生のためか職業のためか」

第２５回「経験から学ぶか、歴史から学ぶか」

第２６回「学習指導要領の基準性」

「教育プロ」（株式会社 ERP 発行）掲載の「時評」

「道徳教育の充実策について」（平成 26 年 1 月 28 日号）

「グローバル人材の育成」（平成 26 年 3 月 18 日号）

「国際成人力調査から考える」（平成 26 年 5 月 20 日号）

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ひとこと」

「主体的に学ぶ力」（第 6329 号（平成 26 年 4 月 22 日））

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ラウンジ」

「「生きる力」の不思議」（第 6341 号（平成 26 年 6 月 17 日））

［講師等］

青森シニアカレッジ（青森県すこやか福祉事業団　青森県長寿社会振興センター）（講演「生涯学習のすすめ」5 月 13 日）

［社会的活動等］

姫路城大天守保存修理検討会（姫路市）副会長（検討会 1 月 21 日）

独立行政法人日本芸術文化振興会芸術文化振興基金運営委員会文化団体専門委員会専門委員（委員会 2 月 17 日～18 日）（平成 25 年 11 月 25 日の委員会にも出席）

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事（理事会 2 月 24 日、理事会 5 月 27 日）

縄文遺跡群世界遺産登録推進本部（総会 2 月 28 日　同本部参与として出席）

公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会 3 月 3 日、理事会 6 月 9 日）

日本イコモス国内委員会監事（理事会 3 月 15 日、理事会 6 月 14 日）

公益財団法人がん研究会評議員（評議員会 6 月 19 日）

外部研究助成金の獲得状況

文部科学省科学研究費助成事業（科研費）

① 平成 26 年度新規採択状況

本学研究者	研究テーマ	補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 経営学科 沼田 郷 准教授	日本と台湾における光学産業の成長と連鎖 （平成 26 年度採択分）	2,210 千円	基盤研究(C) （平成 26～28 年）
（研究代表者） 経営学科 渡部 あさみ 講師	先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理 （平成 26 年度採択分）	780 千円	若手研究(B) （平成 26～28 年）
（研究代表者） 社会学科 佐々木 てる 准教授 （研究分担者） 社会学科 柏谷 至 教授 澁谷 泰秀 教授 櫛引 素夫 准教授 田中 志子 准教授	人口減少社会の外国人統合政策 ～青森県における外国籍者の事例から～ （平成 26 年度採択分）	1,690 千円	基盤研究(C) （平成 26～28 年）
（研究代表者） ソフトウェア情報学科 小久保 温 准教授 （研究分担者） 社会学科 澁谷 泰秀 教授	郵送調査と web 調査のハイブリッド調査から完全 web 調査への移行に関する研究 （平成 26 年度採択分）	1,950 千円	基盤研究(C) （平成 26～28 年）
計	4 件	6,630 千円	

② 平成 26 年度新採用教員の科研費獲得状況

本学研究者	研究テーマ	補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 経営学科 堀籠 崇 准教授	医療法人病院のガバナンスと意思決定 （転出元の大学からの継続研究）	1,040 千円	若手研究(B) （平成 25～27 年）

（研究代表者） 薬学科 水野 憲一 教授	大脳皮質形成における多様なGタンパク質シグナル制御機構の解析 （転出元の大学からの継続研究）	1,690 千円	基盤研究(C) （平成 24～26 年）
計	2 件	2,730 千円	

③ 前年度からの継続研究（科研費）

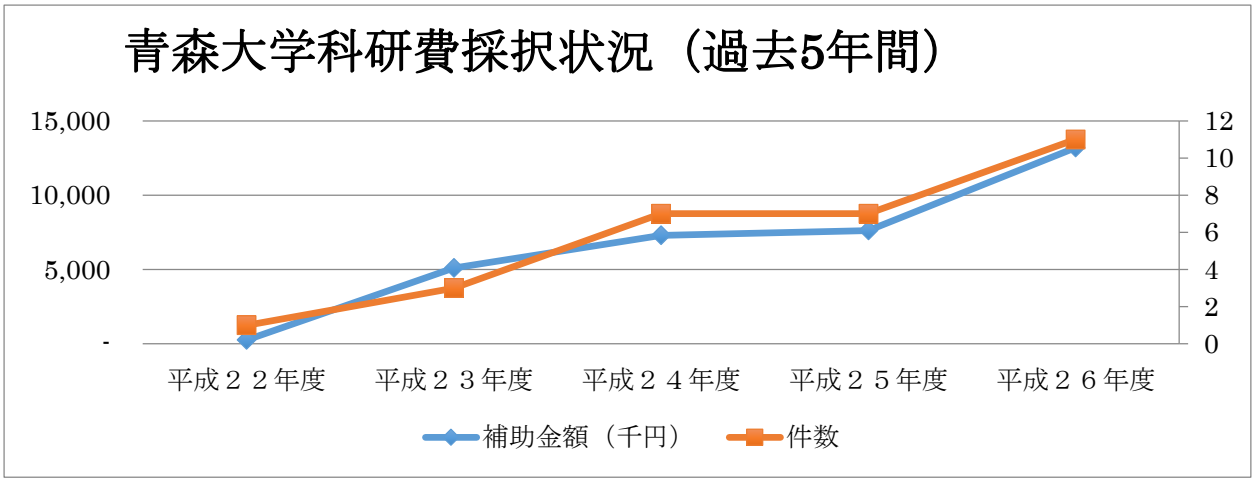
本学研究者	研究テーマ	補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 社会学科 柏谷 至 教授 （研究分担者） 社会学科 澁谷 泰秀 教授 中村 和彦 准教授 佐々木 てる 准教授	環境配慮行動における文化的フレームと意思決定モデルとの統合的アプローチ （前年度からの継続研究）	1,040 千円	基盤研究(C) （平成 24～26 年）
（研究代表者） 薬学科 中田 和一 教授	反射波遮蔽フェンスによるローカライザの積雪障害の抑制に関する研究 （前年度からの継続研究）	650 千円	基盤研究(C) （平成 24～26 年）
（研究代表者） 経営学科 石塚 ゆかり 准教授	日韓の苦情とクレームに関する社会言語学研究 - ビジネス現場と医療機関を中心に - （前年度からの継続研究）	800 千円	若手研究（B） （平成 23、24、26 年）
（研究分担者） 社会学科 澁谷 泰秀 教授	社会情動的選択性から見た高齢者のソーシャルネットワークに関する研究 （前年度からの継続研究）	235 千円	研究代表者 秋田大学 （渡部 諭） 基盤研究(C) （平成 24～26 年）
（研究分担者） 社会学科 柏谷 至 教授 櫛引 素夫 准教授 佐々木 てる 准教授 田中 志子 准教授 ソフトウェア情報学科 小久保 温 准教授 坂井 雄介 准教授	電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発 （前年度からの継続研究）	1,118 千円	研究代表者 八戸大学 （石橋 修） 基盤研究(C) （平成 25～27 年）
計	5 件	3,843 千円	

④　科研費以外の研究

本学研究者	研究テーマ	補助金額	助成財団・期間
（研究代表者） 薬学科 上田　條二　教授	地域薬局の役割に関する研究	300　千円	㈱医薬品情報センター
（研究代表者） 社会学科 澁谷　泰秀　教授 （研究分担者） ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授	CASM を応用した web 社会調査における PC、タブレット、スマホ、携帯電話を用いた反応の相違に関する研究	1,000 千円	大川情報通信基金
（研究代表者） 社会学科 櫛引　素夫　准教授	東北新幹線開業が地元の生活にもたらした影響の検証ならびに北海道新幹線の開業準備の検討と提言	654 千円	青森学術文化振興財団
（研究代表者） 社会学科 佐々木　てる　准教授	「青森ねぶた祭」～宿泊施設の課題と解決策を考える～事業	334 千円	青森学術文化振興財団
計	4 件	2,288 千円	

過去５年間の科研費採択件数及び助成金額

年度	補助金額（千円）	採択件数
平成２２年度	260	1
平成２３年度	5, 109	3
平成２４年度	7, 298	7
平成２５年度	7, 623	7
平成２６年度	13, 203	11



文部科学省の事業である科学研究費助成事業の採択件数は、各大学で研究能力・実績を示す指標として重要視されています。本学は、過去 5 年間の実績で、平成 22 年度の 1 件から平成 26 年度の 11 件へと躍進しました（助成額では 26 万円から約 1320 万円）。本学では、過去においても研究を重要視し、力を注いできましたが、科研費のような大型の研究助成に対する全学的な取組みを開始して 3 年目になります。今後も教育、研究、及び地域貢献の各領域で実績を積み重ねるべく取り組んでいきます。

出張講義などの実施状況

平成 26 年 1 月から現在まで（平成 26 年 7 月現在）の出張講義申し込み状況は、以下の通りとなっています。

NO	依頼先	講義日	氏名	学科	講義テーマ
1	黒石市六郷公民館	1 月 11 日	大平 幸子	事務局長	体健やかヘルシーレシピ
2	県立黒石高等学校	1 月 14 日	佐藤 栄作	薬学科	薬の開発と病気について
3	中央市民センター	1 月 24 日	佐藤 栄作	薬学科	薬はなぜ効くか？
4	中央市民センター	1 月 28 日	藤林 正雄	社会福祉学科	人間関係で悩まないために
5	黒石市六郷公民館	2 月 15 日	大平 幸子	事務局長	体温まるぽかぽかレシピ
6	NPO 法人ほほえみの会	2 月 18 日	藤林 正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
7	八戸市社会福祉協議会	2 月 20 日	藤林 正雄	社会福祉学科	信頼関係を構築する傾聴の仕方を学ぼう
8	五戸町教育委員会	2 月 21 日	安藤 清美	社会福祉学科	遺言
9	NPO 法人ほほえみの会	2 月 25 日	藤林 正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
10	NPO 法人ほほえみの会	3 月 7 日	藤林 正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
11	NPO 法人ほほえみの会	3 月 18 日	藤林 正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
12	NPO 法人ほほえみの会	4 月 22 日	藤林 正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
13	青森県長寿社会振興センター	5 月 13 日	崎谷 康文	学長	生涯学習について
14	青森県立十和田西高等学校	5 月 29 日	徳光 幸子	薬学科	麻薬・覚醒薬乱用の危険
15	青森県選挙管理委員会	5 月 29 日	柏谷 至	社会学科	明るい選挙出前講座「話し合い活動」の拡大と深化
16	青森市男女共同参画プラザ カダール	5 月 31 日	藤林 正雄	社会福祉学科	傾聴入門 1 日集中講座
17	青森市少年指導委員会	6 月 2 日	船木 昭夫	社会福祉学科	より良いコミュニケーションのとり方
18	藤崎町福祉課	6 月 10 日	藤林 正雄	社会福祉学科	オリエンテーション、自己理解・自己の感性を引き出す
19	あおもり未来塾	6 月 10 日	岩淵 護	経営学科	環境時代の物づくり
20	青森県立青森工業高校	6 月 16 日	船木 昭夫	社会福祉学科	ストレスとコミュニケーション
21	藤崎町福祉課	6 月 16 日	藤林 正雄	社会福祉学科	対象者理解、価値観の多様性を知る

22	藤崎町福祉課	6 月 19 日	藤林 正雄	社会福祉学科	働くスキルを身につける①、②
23	藤崎町福祉課	6 月 26 日	藤林 正雄	社会福祉学科	働くスキルを身につける③
24	藤崎町福祉課	7 月 3 日	藤林 正雄	社会福祉学科	働くスキルを身につける④
25	協同組合全国共同店舗連盟	7 月 16 日	赤坂 道俊	経営学科	新しい小売業と経営革新
26	藤崎町福祉課	7 月 17 日	藤林 正雄	社会福祉学科	あらためて聴くことの大切さを理解する
27	青森県男女共同参画センター	7 月 31 日	石塚 ゆかり	経営学科	実践！論理的思考で話すチカラを身につける
28	黒石市企画財政部企画課	8 月 29 日	船木 昭夫	社会福祉学科	明るい職場・家庭とﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ - ｽﾄﾚｽとｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを考える -
29	青森県立むつ工業高等学校	11 月 5 日	嶋田 雄介	薬学科	麻薬・大麻・覚せい剤等薬物乱用防止運動はなぜ必要か
30	青森市沖館市民センター	11 月 7 日	佐藤 栄作	薬学科	薬はなぜ効くか？

平成 26 年 7 月 1 日現在（24～30 は予定）

依頼機関 20 機関　　派遣教員 12 名　　講義開講延べ数 30 回

[青森市と青森大学との包括的な連携協定の締結・調印式]

1 月 29 日、鹿内博青森市長と崎谷康文青森大学学長が協定書に署名調印し、今後、協定に基づき、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び将来的に必要とされる人材育成に寄与することを目的として、具体的な事業を進めていくこととなりました。

青森大学は、青森市で最も歴史があり、かつ、経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部、薬学部という、理系文系を擁する北東北の私学で唯一の総合大学です。青森大学は、この強みを生かし、教職員や学生が持つ幅広い能力を活用し、青森市とともに、地域コミュニティや市街地の活性化、医療健康問題、ＩＣＴ関連人材の育成などの諸課題に積極的に取り組んでいきます。

（青森大学ホームページより）

[青森中央高校と青森大学との高大連携協定の締結・調印式]

２月５日、青森中央高等学校雪田一校長と青森大学崎谷康文学長が、高大連携協定を結びました。

この協定は、青森県の県立高校と大学とが締結する最初の高大連携協定です。

今回の高大連携協定締結を契機として、これまでも行ってきた高大連携の活動を充実させ、双方の教育機能についての交流・連携を格段に強化していき、高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学教育の内容及び求められる学生像への理解を深め、かつ双方の教育活動の活性化を進めていきます。

これまで築いてきた相互の信頼関係に基づき、今後は高校生の大学体験授業や大学の単位認定、青森大学と青森中央高校の教員、学生、生徒による共同研究、共同活動などを実現し、青森県の将来を担う人材の育成に貢献していきたいと考えています。

（青森大学ホームページより）

[青森大学経営学部沼田チーム　新聞「どさぁ？yOMISE さ！」創刊]

2 月 10 日、青森大学経営学部沼田チームのメンバー（経営学部２年 村元さん、三橋さん、北川さん）が夜店通り商店街と関わり約 2 年。

これまで「のぼり」のデザイン等、商店街を盛り上げるために活動してきました。この度、夜店通りの魅力を伝えるため、新聞を発行する運びとなりました（新聞名：どさぁ？yOMISE さ！）。

記念すべき第 1 号での紹介は夜店通りにある洋菓子店「シュトラウス」さんです。店の情報や学生目線のおすすめケーキランキングが紹介され、さらに店主の人柄などが分かる内容となっています。第 2 号以降も楽しみです。この新聞は夜店通り商店街のホームページに載る予定です。

夜店通り商店街 HP ：http://www.nebuta.co.jp/yomise/

（青森大学ホームページより）

[「第 1 回青森地域フォーラム」～青森の今と未来を考える～]

青森大学と青森市との包括的連携協定締結記念「第 1 回青森地域フォーラム」～青森の今と未来を考える～が 3 月 8 日に開かれました。

寒い中、多くの方々にご来場いただき、本当にありがとうございました。

鹿内博市長が「市民主役の元気都市・あおもり」と題して講演したほか、教員が下記のテーマで研究・地域貢献活動について報告しました。

▽沼田郷経営学部准教授「中心商店街にぎわい創出」

▽櫛引素夫社会学部准教授「幸畑プロジェクト」

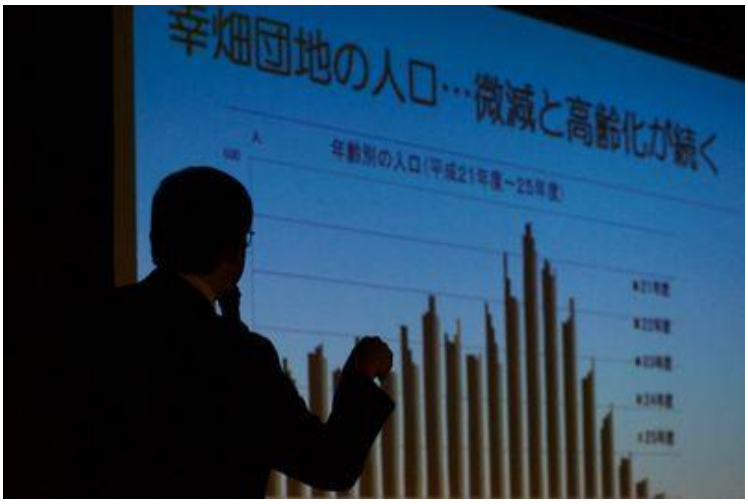
▽角田均ソフトウェア情報学部教授「あおもり街てく」

▽佐藤栄作薬学部教授「薬学部と地域貢献」

▽久慈きみ代社会学部教授「寺山修司と青森」

▽佐々木てる社会学部准教授「青森とねぶた」

崎谷学長はあいさつで「このフォーラムはキックオフです。21 世紀の世界をたくましく生きるため、青森大学と青森市、幸畑地区その他あらゆるものと手を取り合い、青森の抱える問題に挑戦していきます」と強調しました。



（青森大学ホームページより）

[青森地域大学間連携協議会定例学長会議が青森大学で開催]

平成 25 年度青森地域大学間連携協議会の定例学長会議が、3 月 6 日(木)10 時 30 分から青森大学 7 号館第 7 会議室で開催されました。

この協議会は、青森大学の他、青森県立保健大学、青森公立大学、青森中央学院大学、青森明の星短期大学、青森中央短期大学、北里大学の 5 大学 2 短期大学が協定を結び、相互に連携、協力することによって青森地域の高等教育の向上を図ることを目的に設立され、定期的に学長会議を開催しています。

平成 25 年度は青森大学が幹事校として 1 年間担当し、連携校から企画実施されたものをとりまとめ、学長会議に報告しました。

①教育関連事業として、今年度連携校間での単位互換制度の実施状況報告

②地域貢献事業として、市民公開講座や学生交流による地域貢献の実施報告

③大学間教職員支援事業として、FD・SD 研修会実施報告

④青森市がんばる企業推進協議会の事業参加報告

⑤共催事業実施について

5 つの事業で実施された内容を、出席された各連携校の学長から次年度の事業に向けて意見交換がなされました。

また、次年度本協議会の後援事業が承認されました。

①平成 26 年度実践キャリア形成講座(青森県教育委員会主催)

②学びの森市民セミナー(青森大学・青森明の星短期大学共催事業)

（青森大学ホームページより）

[「どさぁ？yOMISE さ」第 2 号発行]

3 月 10 日、「どさぁ？yOMISE さ」第 2 号発行されました。

今回は、夜店通り商店街にある映画館「シネマディクト」館主の谷田恵一さんからお話を伺いました。

青森市の文化芸術シーンを支える谷田さんから、熱いお話をいっぱい聞けました。

当新聞は、アスパム、観光情報センター、青森商工会議所、青森市役所、夜店通り商店街各店舗に置いてあります。サービス情報!?も入っています。ぜひご覧下さい。

※新聞「どさぁ？yOMISE さ」とは、青森市新町にある「夜店通り商店街」を、青森大学経営学部 2 年、村元さん、三橋さん、北川さんが取材編集し、発行している新聞です。

（青森大学ホームページより）

[平内町と青森大学との包括連携協定の調印・締結式]

船橋茂久平内町町長と崎谷康文青森大学学長が包括連携協定書に、本日 3 月 13 日平内町役場にて署名調印し、協定を締結しました。

これまでも、青森大学には、平内町出身の学生が数多く進学しています。これを背景に、今後双方が連携を深めていくことになりました。船橋町長はあいさつで「平内町の特産品や情報発信、地域の課題を町民と、青森大学の知的資源を活かしながら解決をしていきたい。」と熱く語りました。

それに対して、崎谷学長は「青森大学は、地域とともに生きる大学です。次年度は地域貢献の科目も新設する予定です。その中で、青森大学生が平内町に入り、町民のみなさんとの協働の中で学ばせてもらい、問題を解決していく。というお互いにとって嬉しい状況を作り出せるのではないか。」

「青森大学は北東北の私学で唯一の理系文系を有する総合大学です。経営、社会学、福祉、薬学、ＩＴを駆使して、活き活きと躍動する、町と大学を目指す」と締めくくりました。

（青森大学ホームページより）

[平成 25 年度 青森大学学位記授与式]

平成 25 年度青森大学学位記授与式が青森大学正徳館にて、本日 3 月 14 日挙行されました。晴れ着姿の卒業生たちに、多くの方々から祝辞が送られました。崎谷康文学長は、式辞で、好奇心と向上心を忘れず学び続けること、置かれた場所を大切にすること、そして、人とのきずなを大切にすることによって、未来を切り開いてほしいと述べ、卒業生の旅立ちを祝福しました。

卒業生代表として、青森大学へ記念品を贈呈した内藤香央李さんからは「祝辞をいただいた皆さま、本当にありがとうございました。送らせていただいた、教育機器は在学生や新入生のために役立てて欲しいと思います。私たちは青森大学でいただいたものを胸に、置かれた状況下で精一杯輝きたいと思います。」と抱負を語りました。

教職員一同、卒業生皆さんの、これからのご活躍を心より楽しみにしております。

（青森大学ホームページより）

[財団法人 日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価で認定]

学校教育法第 109 条により、平成 16 年 4 月 1 日からすべての大学、短期大学及び高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関の実施する評価を受けることが義務付けられています。

青森大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、同機構が定める大学評価基準を満たしていると認定されました。認定期間は、平成 22 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの 7 年間です。

青森大学は、今回の認証評価の結果を踏まえ、引き続き、大学の教育研究活動等の充実、発展に取り組んでまいります。

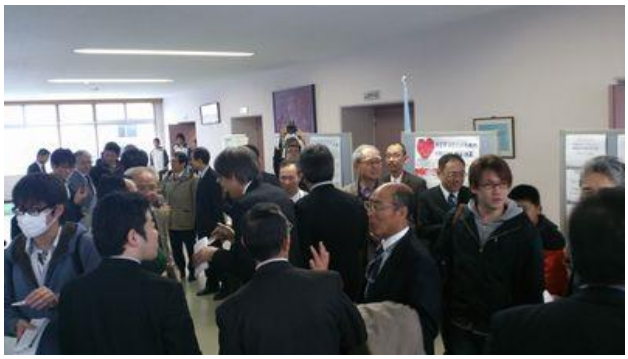
Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE
since 2004
UNIVERSITY
2010.4－2017.3

（青森大学ホームページより）

[青森大学「集いのスペース」開設記念式 ～協働のステージ起動～]

3 月 30 日、青森大学「集いのスペース」開設記念式～協働のステージ起動～を開催しました。

「協働」と「交流」をベースにした学びの場として「集いのスペース」を整備、稼働させることとなりました。地域の皆さんと学生・教員が集い、さらに行政機関やＮＰＯなど各種団体にも加わっていただいて、本学が目指す「地域とともに生きる大学」の理念を実現する教育・研究・地域貢献活動の拠点として活用していきます。



開設記念式では、開設記念セレモニー、施設見学会、施設の活用方法・協働の進め方に関するワークショップを行いました。「学びの森 青森大学」は、21 世紀をたくましく生きる人材の育成を、地域の皆さんとの協働の中で目指していきます。

（青森大学ホームページより）

[第 1 回 学長定例会見]

３月３１日、学長会見を開催しました。崎谷康文学長は、第 7 代目青森大学学長に就任後の 2 年間の青森大学の改革の進展を振り返り、今後の展望について語りました。

崎谷学長は、「青森大学は常に新しくなって変わりつつあり、魅力を高めています。就任とともに、『青森大学ルネッサンス』を提唱し、青森大学の本来の使命を達成するため、『地域とともに生きる大学』、『学生中心の大学』をめざし、改革に取り組んできました。学生がとても明るく積極的に活動し、教職員の士気が高まっているのが、大変うれしいことです。地域貢献センター、学習支援センター、集いのスペースなどが整備され、また、文系、理系の学部がそろった強みを生かして導入した、『基礎スタンダード科目』が学生の学ぶ意欲を向上させています。引き続き、この熱意を持続させ、みなさんのご支援をいただきながら、地域社会の活性化と人材養成の担い手として、教育、研究、社会貢献

活動を充実させていきます。」と述べました。
併せて、崎谷学長は、大学機関別認証評価の結果について、「平成 26 年 3 月 27 日、青森大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準をすべて満たしていると認定されました。青森大学としてはカリキュラム改革や地域貢献活動の推進など、『青森大学ルネッサンス』による改革が評価されたと考えています。」と締めくくりました。

（青森大学ホームページより）

[教学改革のためのタスクフォースの設置]

平成２６年４月から、学長の提案により、教学改革タスクフォースが設置され、活動を開始している。

教学改革のためのタスクフォースの目的、 必要性、任務と運営、主な事業内容は、以下のとおりである。

【目的】

全学的な教学マネジメントを的確に推進し、教学改革の実を上げるため、学長の下に「教学改革のためのタスクフォース」を設置し、全学的なＰＤＣＡサイクルを確立する。

【必要性】

本学は、「大学改革実行プラン」及び「学士課程教育の質的転換」等を踏まえて、カリキュラム改革、地域貢献、授業改善、教育理念の具体化、地域貢献センターと学生支援センターの新設など多面的な教育改革を進めてきた。

平成 26 年度以降に達成すべき課題としては、基礎スタンダード科目の全学的運営体制・授業内容の充実、基礎スタンダード科目に整合的に連結する専門カリキュラムの構築、地域貢献科目の拡大及び実践内容の充実、学生のアクティブ・ラーニングを促す授業設計・教授法の研究等が挙げられる。このような全学横断的な課題に対処するためには、学長の指導･監督の下にタスクフォースを置いて、全学的な方針を明確にし、教務委員会、ＦＤ委員会、学習支援センター、地域貢献センター等が連携協力していくことが最も有効である。

【タスクフォースの任務と運営】

1. 教学改革のためのタスクフォースは、中長期、短期の課題に対し、関係委員会等と連携を図り、大学として必要な方針を示す。
2. 教学改革のためのタスクフォースは、学長が統括する。
3. 教学改革のためのタスクフォースのメンバーは学長が任命する。
4. 効率的な運営を行い、教学改革のＰＤＣＡサイクルを確立する。
5. 次回の認証獲得への有効な対策と位置づける。

【主な事業内容】

1. 基礎スタンダード科目の全学的運営体制・授業内容の充実
2. 基礎スタンダード科目に整合的に連結する専門カリキュラムの構築
3. 地域貢献科目の拡大及び実践内容の充実
4. 学生のアクティブ・ラーニングを促す授業設計・教授法の研究
5. 平成 27 年度全学共通専門科目の開設及び運営体制の確立

[平成 26 年度青森大学入学式]

4 月 2 日、平成 26 年度青森大学入学式を正徳館で挙行しました。新入生 191 名、編入学生 18 名、合計 209 名が入学しました。

式典で、崎谷学長は「大空に夢と希望を大きく描いてください。知的好奇心を持って、生涯をかけて学び続ける力、人とつながる力、自分自身を見据え、確かめる力を身に付けてください。自分の能力を伸ばしながら、社会に貢献できる生き方ができるよう、有意義な学生生活を過ごされることを期待します。」と式辞を述べました。

※写真は、新入生代表宣誓　ソフトウェア情報学部 柿崎拳人くん(青森県立青森北高等学校出身)

（青森大学ホームページより）

［休学期間の変更］

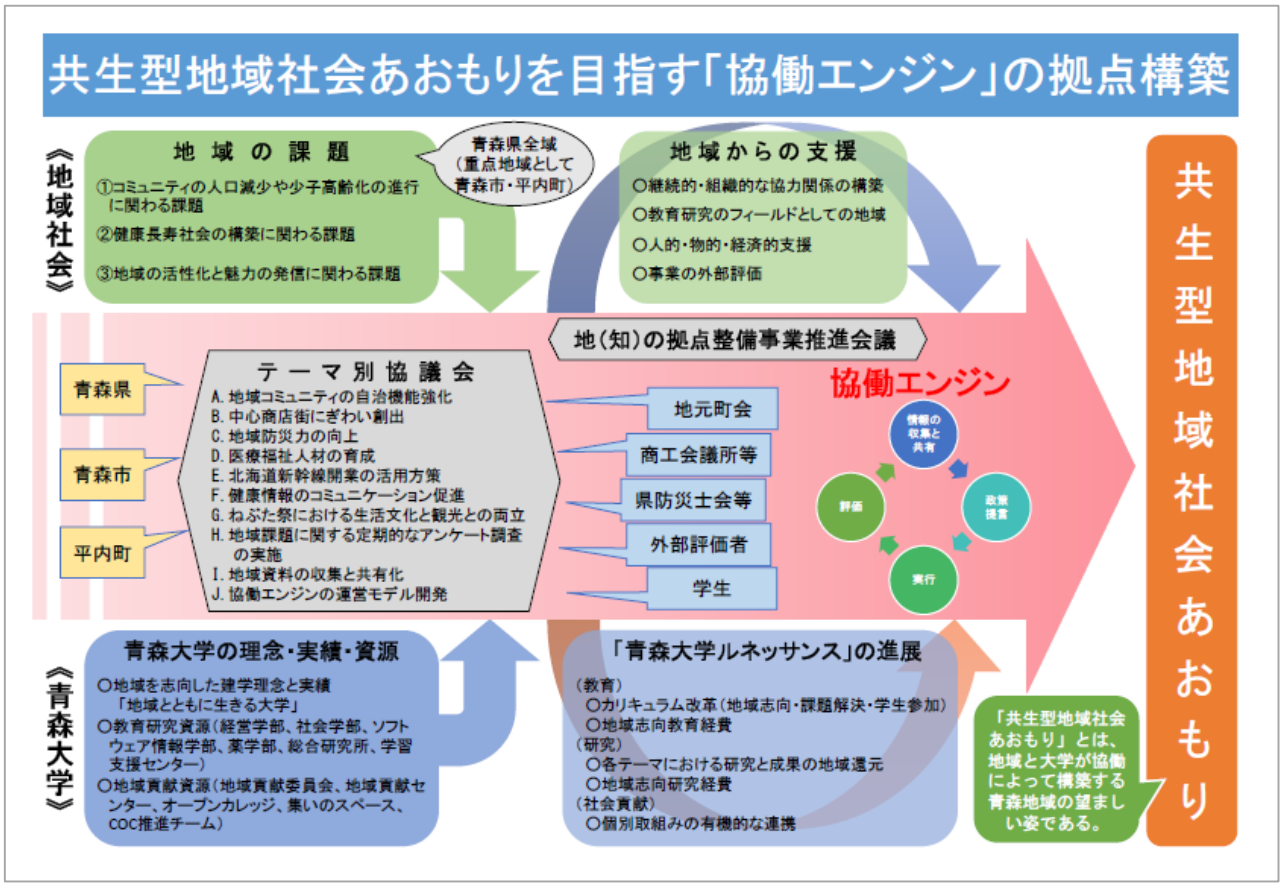
若い世代の人口減少などから、大学を取り巻く環境が大きく変化していることは周知の事実である。大学で勉学する意欲があるにもかかわらず、やむを得ず大学を退学していく学生が少なからずいることは、多くの大学で問題となっている。本学では、勉学に意欲がある学生が学業をできる限り継続できるように配慮し、平成 26 年度から休学期間を下記のように変更した。この変更によって、各学部では学生の指導に当たりよりフレキシブルな対応が可能となる。

「学則改正による休学期間の規程の変更ー通算して薬学部は６年を、他の学部は４年をそれぞれ超えることができない。」

「復籍の規程の創設ー第 28 条第 1 項第 3 号の規定（学納金未納付）により除籍になった者が、除籍後２ヶ月以内に未納の納付金全額を納付し、学長に願い出たときは、学長は、復籍を許可することができる。」

[文部科学省「地（知）の拠点整備事業」への申請]

平成 26 年度の「地（知）の拠点整備事業」への申請を、「共生型地域社会あおもりを目指す「協働エンジン」の拠点構築」をテーマに、4 月 9 日（水）に行った。申請内容の概要を示す資料は、次に示した。



[青森県中小企業家同友会との連携協定締結式]

4 月 10 日、青森大学と青森県中小企業家同友会との連携協定に関する締結式を執り行いました。

青森大学は、これまでも、多くの学生を県内中小企業に送り出すとともに、キャリア教育科目や企業セミナーに青森県中小企業家同友会の会員企業に講師として参加していただいてきました。

このような連携の実績を踏まえ、連携と協力をさらに密接なものとし、地域経済・地域社会の活性化及び将来必要とされる人材の育成に寄与することを目的として、連携協定を締結しました。

冒頭の挨拶で青森県中小企業家同友会小笠原貞子代表理事は「同友会の理念にある“国民や地域とと

もに歩む中小企業をめざす”を実現するため、地域とともに生きる大学、青森大学の培ってきた教育・研究・社会貢献の力を、産学の連携により産業育成や地域に役立つ人材の育成に期待している。」と語り、崎谷学長は「これまで、行ってきた連携事業の強化を図り、産学連携に関する事業としては、教職員と経営者とによる勉強会や企業のニーズと大学のシーズとをマッチングさせるための相談窓口の設置に取り組んでまいります。」と語りました。

（青森大学ホームページより）

[第 21 回寺山修司忌　－萩原朔美氏が記念講演－]

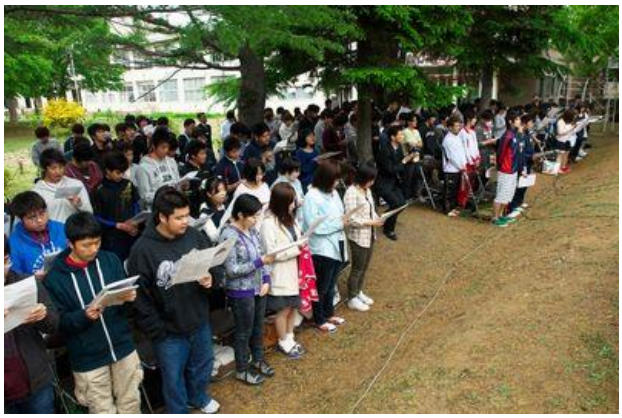
第 21 回寺山修司忌が、5 月 21 日（水）青森大学中庭の校歌歌碑前で行われた。

学生、教職員、一般の方を含む約 250 人が参加。青森大学の校歌の作詞が寺山修司という縁で、毎年、5 月 4 日の命日に因み、この時期に行う。

第 1 部 式典（黙祷、挨拶、献花、偲ぶことば、寺山作品の朗読、校歌斉唱）

第 2 部 特別記念講演「私の寺山修司体験 - 現在が過去を消しに行く不思議 - 」萩原朔美氏

崎谷康文学長、学生代表の柴田葵さんの挨拶、献花、学生による朗読劇が熱演され、最後に参加者全員で校歌を斉唱。式典の模様は、青森テレビ、青森朝日放送、青森放送等で放映。翌朝の新聞でも報道された。

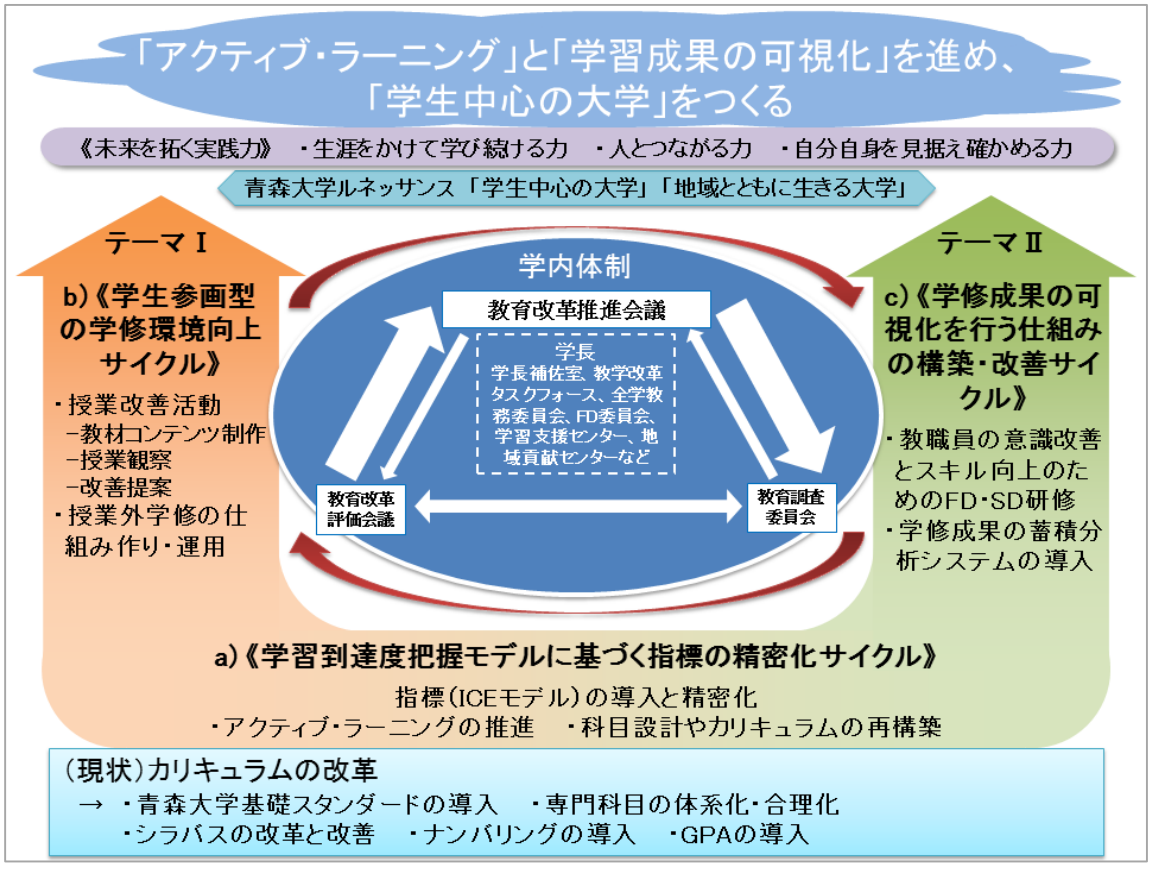


第 2 部では、若い日に寺山修司と親交のあった萩原朔美氏（多摩美術大学教授）の講演。

「寺山さんは言葉の人、寺山さんの世界は言葉がすべて。自分と言葉と幸福に出合ったのが寺山さん」と寺山論を展開。「皆さんも言葉が内側にあると思わず、目についた言葉を拾い合わせレポートを書いてみてください。新しいイメージの世界が生まれます。人間が言葉を創ったが、言葉が人間を創るとも言えます」と学生に創作のあり様を語った。また青森大学の校歌については、第 1 部の式典で、「寺山さんは『学び、生きる意味を問い続けることで、年齢に関係なく青春でいられるよ』と伝えたかったのでは」と、校歌の歌詞を引用して学生に語りかけました。

[大学教育再生加速プログラム（AP）への申請]

本学は、文部科学省が公募している「大学教育再生加速プログラム（AP）」に 5 月 26 日（月）付で申請した。本申請のテーマは、『「アクティブ・ラーニング」と「学習成果の可視化」を進め「学生中心の大学」をつくる』で、申請内容の概略を示す資料を下記に示した。



[第 2 回 学長定例会見]

6 月 13 日（金）青森大学第 1 会議室にて、定例記者会見を開催しました。

会見では、平成 25 年度卒業生の就職状況、本学の研究活動の状況について、学長から語りました。

崎谷学長は、「9 年連続、就職率 90％を超えることができました。今年は過去最高を記録した昨年の 97.6％と同じ数字になり、公務員関係にも多くの学生を送ることができました。青森大学の就活プログラムと学生のキャリアに対する意識の向上の成果と考えています。」と語りました。

研究活動の状況については、「本年度の科学研究費の新規採択が 4 件となり、継続と合わせて 11 件と、過去最高になりました。青森大学は、研究に熱意のある先生が多く、研究活動を充実し、研究成果を活かして、教育・地域貢献活動を進め、地域に役立つよう、努力しています。外部からの研究資金の獲得が進んでいるのは、このような努力によるものと考えます。」と述べました。

併せて、過去 2 年間実質的な活動が不十分であった、青森大学付属総合研究所の活動が活性化し、平成 25 年度中に、青森大学付属総合研究所紀要（電子ジャーナル）を復刊したことを報告し、今後、年 2 回の紀要発行、年 2 回の研究発表会の開催、シンポジウムの実施等、研究所の研究活動の一層の活性化を進める方針であることを発表しました。

（青森大学ホームページより）

教 務 委 員 会

[平成 26 年度から GPA(Grade Point Average)システムが導入される]

教務委員会、FD 委員会

大学での評価制度に関して、平成 26 年度から下記の要領でＧＰＡシステムが新たに導入されることとなった。

1. 成績評価について
   (1) 履修した科目の評価は、担当教員による評点（100～0 点）によって行われます。また評点に対応して評語と合否の判定が確定します。（表 1）
   (2) 学生と保護者に配布される成績表には評語のみが表記されます。

表 1. 評点、評語、判定、グレードポイント

評点	評語	判定	グレードポイント
100 - 90 点	S	合格	4
89 - 80 点	A		3
79 - 70 点	B		2
69 - 60 点	C		1
59 - 0 点	D	不合格	0
評価不能	N		

2. GPA(Grade Point Average)について

(1) GPA は履修した科目の評価に対応したグレードポイント（表 1）を単位数で平均化したものです。高評価の科目が多ければ GPA は上がり、低評価の科目や不合格の科目が多いと下がります。合格か不合格かで決まる単位数を「量的な」評価とすれば、GPA は成績の内容を問う「質的な」評価基準となります。

(2) GPA は成績表とともに成績証明書等にも表記され、就職活動などでも会社から参照される評価になります。また学部・学科によっては進級判定、卒業要件、奨学金や特待制度の審査等で考慮される場合もあります。

(3) GPA は 4 年間（薬学部は 6 年間）を通じての評価となります。一度下がると回復が困難ですので常に高い値を維持するように心がけてください。

（参考）GPA の計算方法

表 2. GPA の計算例

科目名	単位数(a)	評点	評語	GP (b)	a×b
○○学概論	2	95	S	4	8
○○学要説	2	85	A	3	6
□□学演習 I	1	55	D	0	0
□□学演習 II	1	70	B	2	2
△△基礎実験	2	90	S	4	8
計	8				24
GPA＝(履修登録科目の単位数×科目の GP)÷(科目単位数の合計)					3.00

GP …グレードポイント（表 1 参照）

注 1）不合格の科目も含め、履修したすべての科目から計算されます。

注 2）教職に関する科目など卒業単位に含まれない資格関連科目や、編入学生の認定科目は GPA の計算に含まれません。

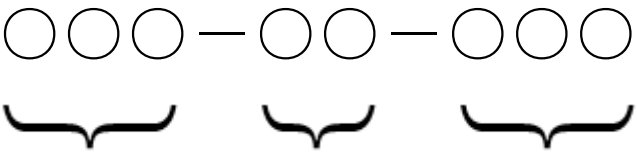
（3 月部長会資料より）

[科目ナンバリングの導入について]

教務委員会、FD 委員会

科目ナンバリングは授業科目に分類番号を付けて、対象とする学部、区分、レベルを表示することで、教育課程の体系性を明示するしくみです。学生は科目ナンバリングを利用することによって、自らの目的に合わせて適切な授業科目を選択することができ、卒業までの学修の見通しを立てることができます。各科目のシラバスと学科のカリキュラム表に授業コードとして記載していますので、下記の説明をよく読んでコードの意味を理解し、履修計画等の参考にしてください。

■科目ナンバリングの構造と意味



- 学部等コード

BUS	経営学部	Business Administration
SOC	社会学部	Sociology
SIT	ソフトウェア情報学部	Software and Information Technology
PHA	薬学部	Pharmaceutical Sciences
ABS	基礎スタンダード	Aomori Basic Standard
TEA	教職に関する科目	Teacher Training

- 区分コード

CO	必修科目	Compulsory	卒業要件
CE	選択必修科目	Compulsory Elective	卒業要件
EL	選択科目	Elective	卒業要件
LI	資格専用科目	License	卒業要件外

- レベルコード

400 番台	応用レベル
300 番台	上級レベル
200 番台	中級レベル
100 番台	基礎レベル
000 番台	入門レベル

■科目ナンバリングの例

ABS-CO-005 「学問のすすめ」 … 基礎スタンダード、必修科目、入門レベル 05 番

BUS-CE-325 「経営組織論 I」 … 経営学部、選択必修科目、上級レベル 05 番

科目ナンバリングについて不明な点は教務委員または FD 委員まで問い合わせて下さい。

（３月部長会資料より）

就　職　委　員　会

平成 25 年度　青森大学の就職率　「97.6%、過去最高の前年に並ぶ」

青森大学を今春卒業した学生の 5 月 1 日現在の就職状況がこのたびまとまりました。

民間企業への就職を希望する 164 名のうち、就職したのは 160 名（うち青森県内は 79 名）で、就職率は 97.6%で、過去最高を記録した昨年と同じ数字となりました。

学部別にみると、ソフトウェア情報学部と薬学部は 100%、経営学部 97.3%、社会学部 96.6%となっています。

高い就職率を維持した要因について、就職委員会では以下の取り組みが奏功したと分析しています。

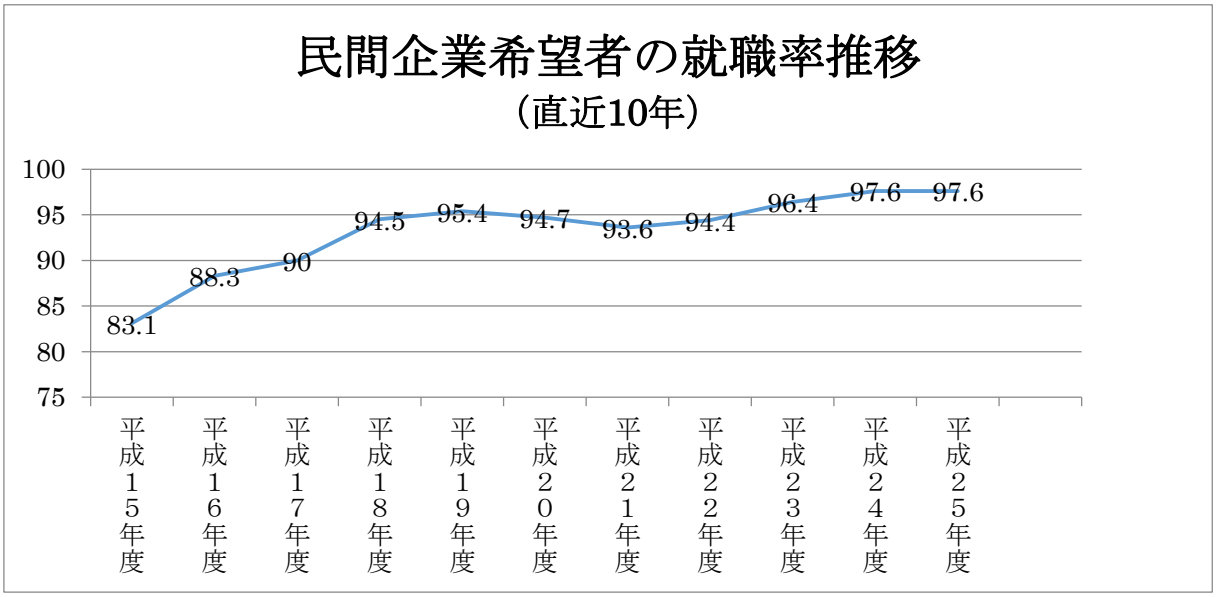
①全学部において資格取得や免許につながる実践的な教育に力を入れている

②基礎スタンダードとして大学 1 年生から外部企業と連携し、実践的なキャリア教育に取り組んでいる

③ゼミ担当教員が学生全員と個別に就職活動での悩みや進路について相談に乗ってアドバイスを行っている

④エントリーシートや面接対策、業界・企業研究のガイダンスに重点を置いて年間 16 回実施している

青森労働局の集計・発表によると、3 月末時点で、青森県内大学の公務員、教員への就職希望者を含めた就職率は 95%で、青森大学は 96.4%となっています。



学　生　課

[平成 25 年度青森市文化賞・スポーツ賞表彰式]

平成 25 年度青森市文化賞・スポーツ賞表彰式が 2 月 21 日ホテル青森、孔雀の間で開催されました。

同賞は、スポーツ大会において優秀な成績を収めた方及び団体、またその指導者に与えられ、青森大学はスポーツ賞、スポーツ奨励賞、スポーツ指導者賞を受賞しました。

■青森市スポーツ賞

上田 仁

ジャパンオープン・荻村杯 2013 国際卓球選手権横浜大会

男子ダブルス　優勝

■青森市スポーツ奨励賞

【団体】

青森大学新体操部

北九州市制 50 周年記念　第 65 回全日本学生新体操選手権大会

男子団体　第 1 位

青森大学体操競技部

第 28 回東日本学生体操競技グループ選手権大会

男子団体総合　第 1 位

青森大学卓球部

第 83 回全日本大学総合卓球選手権大会　団体の部　準優勝

青森大学準硬式野球部

平成 25 年度東北地区大学準硬式野球連盟東北リーグ

春季リーグ戦　優勝

【個人】

川西雅人

北九州市制 50 周年記念　第 65 回全日本学生新体操選手権大会

男子個人種目別　リング　第 2 位

小林翔

北九州市制 50 周年記念　第 65 回全日本学生新体操選手権大会

男子個人総合　第 2 位

池田忠功

第 66 回東北学生卓球選手権大会　男子シングルス　優勝

岳瀬拓磨

2013 年東北学生テニス選手権大会　男子シングルス　優勝

本多彩乃

2013 年東北学生テニス春季トーナメント大会

女子シングルス　優勝

田中匠瑛

第 68 回国民体育大会　陸上競技　成年男子 800m　第 2 位

■青森市スポーツ指導者賞

髙岩薫

青森大学新体操部

（北九州市制 50 周年記念　第 65 回全日本学生新体操選手権大会

男子団体　優勝）を指導

（青森大学ホームページより）

[優勝者４名、入賞者７名、男子４００ｍリレー２位、１６００ｍリレー３位！！]

４月２６日(土)、２７日(日) の２日間にわたって、第６９回北日本陸上競技選手権大会が弘前市で開催され、本学陸上競技部からは多くの選手が参加しました。２０１４年度の開幕を告げる本大会は、厳しい冬を乗り越え積み上げてきた力が試される重要な大会です。選手は試合前「期待と不安が交錯していますが、全力を尽くしたいです」と、語っていました。

チーム一丸となって臨んだ初戦、皆様からの多くのご声援を受け、そして選手の日々の努力が形となった結果、優勝者４名、入賞者７名、さらにチーム力が試されるリレー種目において、４００ｍリレー２位、１６００ｍリレー３位と好成績をおさめることができました。全日程終了後、渋谷直寿主将は「チームとして順調に仕上がってきています。これから東北インカレ、そして全国で戦えるよう

に頑張りましょう」と、引き締まる言葉をかけてくれました。

青森大学陸上競技部は、東北そして全国で戦う第一歩を踏み出しました。これから更なる精進を重ね、結果を残すことを目標としています。ご声援、宜しくお願い致します。

（青森大学ホームページより）

[短命県返上へ、元気あっぷる体操！]

青森大学男子新体操部は、NHK 青森放送局が取り組んできた「脱短命県」プロジェクトで「元気あっぷる体操」を考案、体操の振り付けを担当しています。楽しく元気に体を動かして健康になろう！ということで、あっぷるワイド毎週金曜日のコーナーで県内各地、地域の人たちに踊ってもらっています。あっぷる体操は、NHK 青森のホームページ内でも見ることができます。是非ご覧ください。

（青森大学ホームページより）

[県内外の寺山ファンを前に朗読！]

5 月 4 日（日）、寺山修司記念館フェスティバル 2014 春で行われた「修司忌」に、青森大学文芸部「幸畑文学」＆演劇団「健康」の 9 名が参加。文学碑に献花後、寺山修司へのオマージュ「五月の序詞（うた）」を朗読。4 月 30 日に突然亡くなられた元妻の九條今日子さんへの哀悼の意も込めて朗読された。

なお、青森大学の第 21 回「寺山修司忌」は、5 月 21 日（水）10:40～12:10、萩原朔美氏をお招きして、大学中庭の校歌歌碑前で行いました。

[１６００ｍリレー優勝！！ 多くの選手が入賞を果たす]

第４０回青森県春季陸上競技選手権大会が５月４日(日)から６日(火)の３日間、青森県総合運動公園陸上競技場で開催されました。県内全域から年齢を問わず多くの選手が出場し、大会期間中は途切れることのない歓声が選手を鼓舞し続けました。

本学陸上競技部においては、東北インカレ前の重要な大会として位置づけ、それぞれが入賞、優勝することを目標として臨みました。その結果、初日から多くの選手が優勝や入賞を果たし、最終日の１６００ｍリレーでは２位に大差をつけ優勝することができました。
東北インカレを目前に控え、チームの雰囲気は盛り上がっています。多くの選手が全国への扉を開いてくれることを祈っています。皆様、ご声援よろしくお願い致します。

＜優勝者・入賞者一覧＞

○個人種目

佐藤　寛峻（社会学部３年）
　円盤投げ　　２９ｍ１５　（２位）
　ハンマー投げ　３５ｍ８５　（２位）

福士　紗恵（社会学部３年）
　１００ｍ　　１２秒７９　（優勝）

川村　一真（社会学部２年）
　４００ｍ　　４９秒６９　（２位）

吉沢　幾哉（社会学部２年）
　４００ｍ　　５１秒１０　（５位）

田澤　凌亮（経営学部２年）
　砲丸投げ　　１４ｍ１４　（優勝）

葛西沙也加（経営学部２年）
　やり投げ　　３２ｍ２３　（７位）

○４００ｍリレー　４２秒２５（２位）
吉沢　幾哉（社会学部２年）第１走者
渋谷　直寿（社会学部３年）第２走者
川村　一真（社会学部２年）第３走者
榊　　孝太（社会学部２年）第４走者

○１６００ｍリレー　３分２２秒９７（優勝）
吉沢　幾哉（社会学部２年）第１走者
久保　瑠偉（経営学部２年）第２走者
竹中　勇輝（経営学部４年）第３走者
川村　一真（社会学部２年）第４走者

（青森大学ホームページより）

[青森大学剣道部、全日本学生剣道選手権大会・全日本女子学生剣道選手権大会に出場へ]

第６２回東北学生剣道選手権大会

平成２６年５月１１日　塩釜ガス体育館

第５位（ベスト８）：小笠原　亮（経営学部２年　写真１枚目右）

《７月６日に日本武道館で行われる全日本学生剣道選手権大会に出場》

第４８回東北女子学生剣道選手権大会

平成２６年５月１１日　塩釜ガス体育館

第３位：篠塚　光（経営学部３年　写真１枚目左）

《７月５日に日本武道館で行われる全日本女子学生剣道選手権大会に出場》

第６２回青森県春季剣道選手権大会

平成２６年５月１８日　青森市民体育館

２５歳未満の部

優　勝：青木響之介（経営学部４年　写真２枚目中央）

第２位：小笠原　亮（経営学部２年　写真２枚目左）

第３位：篠塚　光（経営学部３年　写真２枚目右）

（Facebook　青森大学サテライトより）

[準硬式野球部　悲願の全国大会へ]

5 月 31 日、6 月 1 日に仙台で行われた東北代表決定戦において、粘る富士大を振り切り、全国大会への切符を手にしました。部員数 17 名と小規模ながら、文字通りの全員野球で勝ち抜いてきたチームは、８月に行われる全日本選手権（岡山県倉敷市）に出場し、全国制覇への夢を追い続けます。

（青森大学ホームページより）

[サイバー防犯ボランティア、本学学生 92 人に委嘱]

6 月 6 日、青森県警察（県警）より、本学の学生 92 人が、サイバー防犯ボランティアとして委嘱されました。

県警が学生をサイバー防犯ボランティアに委嘱するのは本学が初めてのことです。

委嘱された学生は、インターネットを利用する中で見つけた有害情報を県警に通報したり、県警と一緒に啓発活動に取り組みます。さらに、この活動を通して、自分自身のインターネットに対する考え方の成長を図ります。

（青森大学ホームページより）

[青森市幸畑地区『住民一掃き運動』に参加]

平成２６年６月８日、幸畑団地連合町会主催の春季『住民一掃き運動』に参加しました。朝７時、マックスバリュ幸畑店駐車場に集合し、各自ゴミ袋や道具を受け取ったあと、団地西口（大和タクシー）方面と団地東口（八甲田交番）方面に分かれてゴミ拾いを行いました。

参加された幸畑地区各町会の皆さん、学生の皆さん、お疲れ様でした。

これからも「幸せの畑」の名に相応しい街づくりのために協力していきたいと思います。

（Facebook 青森大学サテライトより）

[平成 25 年度青森大学地域貢献賞表彰式]

1 月 22 日、青森大学 7 号館にて、「平成 25 年度青森大学地域貢献賞」表彰式を行いました。

青森大学地域貢献賞は、青森大学の基本理念の一つである「大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となる」ことを具現化し、他の学生の模範となる個人又は団体を表彰することを目的に平成 25 年度に創設しました。

多数の応募された地域貢献活動の中から、審査の結果、地域社会全体や不特定多数の人たちの利益の増進に寄与し、学生が自発的に取り組んだ以下の活動を今年度の地域貢献賞に選定しました。

■優秀賞

・中心商店街にぎわい創出事業（青森大学沼田チーム）

■奨励賞

・ねぶた制作並びにねぶた合同運行（青森大学ねぶた祭学生実行委員会）
・幸畑プロジェクト活動支援（プロジェクト K）
・青森大学 BBS 会活動（青森大学 BBS 会）
・「あおもりクエスト」システムのためのコンテンツ制作（まちづくり工房）
・地域住民に向けた演技会の実施（青森大学男子新体操部）
・自立支援センターみらい野球指導ボランティア（青森大学硬式野球部）
・ちびっ子健康マラソン大会ボランティア（青森大学硬式野球部）
・青森市自由ヶ丘町会「夏の夕べ」ボランティア（青森大学硬式野球部）

（写真は青森大学沼田チーム（中心商店街にぎわい創出事業）＝1 月 22 日）
（青森大学ホームページより）

[第１回ちょこボラ cafe 開催]

青森大学地域貢献センターは、学習支援センターと共催で「地域貢献・ボランティア講座」（愛称：ちょこボラ cafe）を１月２４日開催しました。

ちょこボラ cafe では、地域貢献活動やボランティア活動に関心を持つ学生と学内外の活動団体・個人との交流、そして、学生相互の交流を通じて、地域貢献活動やボランティア活動への学生の主体的な参加を推進します。今回の cafe では、新山和子さん（日本語学習支援「青い森」代表）をお招きして、「ボランティア」について考え、体験する場所となりました。「ちょこボラ」にちなんで、ディスカッションのお供はチョコ。今後のちょこボラ cafe では、どんなチョコが並ぶのか？新しい学びと併せて、楽しみの１つとなりました。

（青森大学ホームページより）

[第 3 回　学びの森市民セミナー開催]

5 月 24 日（土）に第 3 回学びの森市民セミナーが本学 6 号館記念ホールで開催されました。本セミナーは青森大学と青森明の星短期大学が相互のカリキュラムの充実と地域住民への生涯教育の推進を目的として、昨年から開催しております。今年度は第３回目として東北大学薬学部の大島吉輝先生をお招きし「自然のなかの薬」という演題でご講演をいただきました。当日は本学の学生を中心に 240 名の来場者があり、日頃私たちが使っている薬の効能など生活に密着した話題をわかりやすく解説していただきました。

（青森大学ホームページより）

学習支援センター

学習支援センターは 2013 年 9 月に発足して以降、事業体制を整備するとともに、学生を対象とした学習相談窓口を開設した。活動は徐々に浸透し、相談した学生が学習面や学外の自発的な活動を開始するなど、一定の成果が上がりつつある。

(a) 学習相談窓口の開設

- 1 月は 10 回、2 月は 6 回、3 月は 8 回開設した。平成 25 年度としては、計 57 回、相談件数は延べ 29 件となった。
- 平成 26 年度は、5 月が 2 回、6 月は 13 回（予定）で、計 15 回開設し、6 月 20 日現在で 4 件の相談があった。
- 主な相談内容は、就職活動、キャリア、履歴書の添削、PC の購入、卒業研究、履修の相談、レポートの書き方指導、授業の課題について、イベントの実施など、非常に多岐にわたる。卒業研究への助言が大学院進学につながった学生がいた。このほか、「学生生活を充実させたい」と相談に訪れ、教職員のアドバイスを得て、4 月から県内全市町村の踏破に乗り出した学生もいる。
- 平成 26 年度の事業計画としては、ピアカウンセリングの実施に向けた準備、専門家カウンセリングとの連携等を実施する予定である。

(b) 学修時間・学修行動調査

- 規定に基づいて、教務委員会と合同で平成 25 年度前期の調査を実施し、9 月末に分析結果をまとめた後、1 月に後期分の調査を実施した。さらに、3 月 31 日、分析結果を学内に配布した。
- これらの結果の活用法については、今後、具体的に検討を進める予定である。
- 平成 26 年度の事業計画としては、前期と後期に各 1 回、調査を実施する予定である。

(c) 基礎演習向け「共通テキスト」の作成

- 平成 26 年度から開講した「基礎演習」及び「地域貢献基礎演習」等で使用するため、共通テキストを作成した。教職員に執筆を依頼、2 月中に原稿をとりまとめ、新学期に合わせて第 1 部を完成させて新入生に配布した。
- 引き続き、第 2 部と第 3 部を作成する予定である（原稿はとりまとめ済み）

(d) 学習環境の IT 化推進

- 多くの授業で学習支援システムを利活用できるよう、平成 26 年 2 月 7 日、教職員向けに Moodle 説明会を実施した。新年度は、複数の科目で Moodle を活用している。

(e) 学生スタッフの受入れ

- 平成 26 年度からセンターの活動に学生を参画させるため、。学友会と打ち合わせを行った。

(f) 学生によるミニセミナーの実施

- 平成 25 年度は、就職内定を得た 4 年生に講師を依頼して 4 回のミニセミナーを実施した。26 年度も、実施計画を立てつつある。また、資格取得関係のミニセミナーの実施準備を進めている

(g) 教務委員会・FD 委員会・学生委員会等との共同事業

- 地域貢献センターと連携して第 1 回「ちょこボラ café」を平成 26 年 1 月 24 日に実施した。当日は、講師に新山和子氏をお招きし、「外国人の日本語学修をお手伝いする活動について」という内容で、ワールドカフェ形式で意見交換を行った。平成 26 年度も、4 月、5 月の最終金曜日夕方の時間帯に、毎回テーマを変えて集いの場を設けている。

(h) 「集いのスペース」の設置

・平成 25 年度「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」の採択にともない、運営主体の片方として、場所・利用方法について検討に加わり、3 月 30 日には「集いのスペース」の開設記念式典を行った。当日は、学外から 29 名、学内から 35 名、合わせて 64 名の参加を得て、開設記念セレモニーや施設の活用方法・協働の進め方に関するワークショップを実施した。今後の運用については、地域貢献センターが中心に利用のルールなどを整備している。

[公務員(青森県警)志望者対象ミニセミナーの開催]

（青森大 OB の警察官葛西さんが警察官の魅力を披露）

（右が警務課主幹釜石充さん、青森大 OB の葛西宏政さん）

学習支援センター・ミニセミナーの今年度第一回目の企画として 6 月 25 日（水）4 時間目に 633 教室において、「公務員(青森県警)志望者対象ミニセミナー」を開催しました。この企画は NPO 法人プラットフォームあおもりの支援(担当：櫻田とき子、榊麗未両氏)を受けて行われましたが、青森県警本部からは人事採用担当として警務課主幹釜石充氏と若手職員からは青森警察署巡査長、葛西宏政氏(青森大学社会学部社会福祉学科卒業)を招いて話を聞きました。

釜石氏からは、警察官の大量退職が平成 28 年ごろまで続くことから、現在の採用人数がこれまでになく多くなっているため学生は今がチャンスであると強調する一方、警察官に求められる人物像としては、①根気強い人、②正義感の強い人、③協調性のある人など、が挙げられました。

青大生の卒業生で勤務 3 年目の葛西氏によれば、最初は一般企業に勤めたものの、青森県に戻って、人と接するやりがいのある仕事に是非就きたいということで、警察官になったなどと説明してくれましたが、後輩に向けての言葉としては、「面接などでは、マニュアル的な説明ではなくて、しっかりした自分の考えや意見をもって、率直にそれらを述べていただきたい。」と教えていただきました。

参加した男子学生からの感想としては、「警察官の具体的な生の話を聞くことが出来て非常に貴重な体験をしました。」、「警察官の仕事は当初大変だと思っていたが、意外に人と接する仕事で楽しそうな仕事だと思いました。」などと、全体的になごやかな雰囲気のうちに終了しました。

ミニセミナー担当：佐藤豊(社会)、恵良二郎(経営)、横山達哉(事務)

（青森大学ホームページより）

青森大学オープンカレッジ

（1）青森大学オープンカレッジ概要について　　［オープンカレッジ所長　藤田　均］

青森大学では、昭和５２年、本格的な生涯学習を推進する機関として青森大学文化センターを発足、その後、国の文教政策が「大学が生涯学習センターを自主的に開設し、社会人向け講座への解放を」と提言したことが追い風となって、平成２年には青森大学オープンカレッジとして新たなスタートを切り、以来今日まで、大学の研究、教育の成果を広く一般に開放する本格的な生涯学習常設機関として、順調な発展を遂げてきています。

昭和５２年度の開設から平成２５年度までの総受講生はおよそ３千人にのぼり、本大学教員の協力体制により、３７年間にわたって、研究と教育の成果を社会に還元し、地域文化の向上と活性化に貢献してきた実績は、全国でも数少ない生涯学習機関として、極めて高い評価を得ています。

オープンカレッジの受講には年齢・性別・学歴等あらゆる制限がありません。大切なことは、自己を高め、新しい知識を身につけ、人生を豊かに過ごそうという意欲です。かつては、人生の初期においてすべての教育を行ってきましたが、これからは生涯にわたっての学習が人生を支える時代を迎えていると考えます。

（2）平成２５年度１月から３月及び２６年度４月から６月まで実施した事業について

実施状況は以下の通りです。

平成２５年度　青森大学オープンカレッジ事業実施状況

講座名		実施日	定員(名)	登録者数(参加者)	のべ参加総数(実参加数/名)	備考
総合講座	オープンカレッジ 市民大学講座	年間２０回、金曜日	40名	４５名	７５４名	32年目
野外講座	みちのく散歩みち	年間６回、火曜日	２５	２５	１３８	31年目
	大自然トレッキング	年間6回、木曜日 ①5/23　②6/6 ③6/20　④7/25 ⑤9/5　⑥10/3 (登録者数)	２５	①２９ ②２１ ③３４ ④２８ ⑤２４ ⑥２２ (５７)	１５３	13年目
教養講座	源氏物語を読む	年間10回、火曜日、5月～11月	１２	１２	９０	14年目
	特別講義・縄文講座	10/25（金） 市民大学第17講として	－			2年目
	植物の不思議観察会 (夏休み小学生主体)	8月3日（日）	１５	１３	１３	1年目

趣味講座	ソシアルダンス	10月～12月 火曜日、8回	１２	１０	６２	15年目
	油彩画教室	11月～12月、５回 木曜日	１２	８	３７	12年目
冬講座	オープンカレッジ スキー大学	１日コース、６日間 半日コース、４日間 火曜日 安比ツアー１日	３０	２６ ４ ２４	１７９	37年目
	スノーシュー歩き	H26.2/27,3/6　２回 木曜日	２０	１３	２０	1年目
イベント	版画まつり （陸奥新報社共催）	青森会場3/8.9 弘前会場2/28～3/2 八戸会場3/15.16				第29回
総　合　計				２１４	１，４４６	

上記の実施内容である市民大学講座、冬講座及びイベントの内容は、次のとおり。

平成２５年度　市民大学講座の　テーマと講師等

	テーマ	講　　師
１	民法大改正について	青森大学特任教授　平井卓
２	青森県の歴史の虚像と実像	青森山田学園理事長　盛田稔
３	世界における日本の自然	薬学部教授　オープンカレッジ副所長藤田均
４	エミシとエゾの世界	弘前大学教育学部教授　斉藤利男
５	目からウロコの憲法講話	弁護士　田村智明
６	青森県ゆかりの文学	弘前ペンクラブ会長　齋藤三千政
７	植物ポリフェノール	薬学部薬学科准教授　清川繁人
８	野外学習（日展鑑賞）	(藤田記念庭園、青森県武道館・日展)
９	心を支える宗教	正覚寺住職・青森大学理事　楠美知剛
１０	認知症のはなし	社会学部社会福祉学科准教授　武蔵恵美子
１１	コンピューターのしくみ	ｿﾌﾄｳｪｱ情報学部准教授　坂井雄介
１２	日常的差別を読み解く	社会学部社会学科准教授　佐々木てる
１３	精神障害とは何か	社会学部社会学科教授　藤林正雄
１４	叙情歌を楽しむ	ｿﾌﾄｳｪｱ情報学部准教授　白岩貢
１５	傾聴のすすめ－円滑なコミュニケーションのために	経営学部経営学科准教授　石塚ゆかり
１６	高照神社の源氏物語	社会学部社会学科教授　久慈きみ代
１７	野外学習（三戸・南部）	民俗学研究家　成田敏

１８	はがき絵体験	洋画家　張山田鶴子
１９	カメラ産業とデジタルカメラ	経営学部経営学科准教授　沼田郷
２０	生涯学習のすすめ	青森大学学長　崎谷康文

平成２５年度　冬講座

○オープンカレッジスキー大学

講師・全日本スキー連盟指導員

第１講（1／14）　雲谷スキー場　　第２講（1／21）　雲谷スキー場

第３講（1／28）　大鰐スキー場　　第４講（2／4）　雲谷スキー場

第５講（2／18）　大鰐スキー場　　第６講（2／25）　雲谷スキー場

第７講（3／4）　安比スキー場

（修了記念ツアー）

○スノーシュー歩き講座

第１講（2／27）　モヤヒルズ周辺（国有林雲谷の森）

第２講（3／6）　モヤヒルズ周辺（国有林雲谷の森）

青森大学オープンカレッジイベント

○版画まつり

第２９回県下小・中学生「あおもり版画まつり」　青森大学・陸奥新報社共催

応募校小学校・中学校合わせて２６３校、応募点数２１，３９９点

審査　　平成 25 年 1 月 23，24 日

表彰式　平成 25 年 3 月 2 日　さくら野弘前店にて実施

青森大学オープンカレッジの平成 26 年度 4 月～6 月まで実施した事業について

［市民大学講座］

4 月 18 日（金）市民大学講座開講式が行われ、48 名の受講者が参加した。

崎谷学長が、「生涯学習」としての「青森大学オープンカレッジ市民大学」を大いに活用し、広く知識を吸収し地域貢献に役立てるとともに、クオリティ・オブ・ライフ（生活の質）を高めて欲しいと挨拶をした。

なお、今年度より本市民大学講座２０講の中、２回の野外講座と９回の青森大学での講座は従来通りであるが、残る９回は新たに会場を青森駅前のアウガ５階会議場に移して行うこととし、青森大学で行っている地域貢献力をアピールすることとしている。

引き続き、**第１講**として「家族法の改正と庶民感覚」と題し、青森大学平井卓特任教授が講演

第２講　5 月 9 日(金)　「新幹線と青森の将来」について、社会学部櫛引素夫准教授が講演

東北新幹線の誘致の歴史功罪裏話から、各地区の新幹線開業に至る経緯と青森との比較を解説した。

第 1 講

第 2 講

第３講　5 月 16 日（金）　「コンビニ百円ショップの話」について経営学部赤坂道俊教授が講演

百貨店から総合スーパー、家電量販店、ホームセンター、通販、そして 100 円ショップの流通システムの変遷と、経営システムの表と裏や戦略の違いについて解説した。

第 4 講　5 月 30 日（金）　「青森市議の報酬は高い？低い？」について社会学部菅勝彦部長が講演

青森市の市議会の歴史的背景と青森市の人口、議員定数、財政や全国の市町村の意外な議員報酬ランキングを紹介。

第 5 講　6 月 6 日（金）　「中高年になっても不思議な知能を伸ばす方法」について社会学部鈴木康弘教授の講演

知能と運動、老化について参加者の実態を確かめながら、今からでもできる老化軽減対策を学んだ。声に出して、行動を確認しながら物忘れを予防することが肝要であると解説。

第４講

第５講

第 6 講　6 月 13 日（金）　「効果と副作用から考える漢方薬の使い方」について薬学部の上田條二教授の講演

漢方薬の世間の常識と現実の違いから始まり、役割、診断法、中医学、証に対する認識、東洋医学の考え方、治法、副作用の解説があった。後半は、甘草、黄芩、附子、麻黄、桂皮、地黄等具体的な漢方薬の効能について話があった。

第 7 講　6 月 27 日（金）　会場を青森大学から青森駅前アウガ 5 階の研修室に移しての初めての講座。受講者 48 名、演題は「青森の気象～青森市の多雪とヤマセのなぜ？」青森地方気象台の予報官；渡邉司さん。気象台の仕事内容から、青森の気象の特徴や多雪の要因を詳しく解説。「ヤマセ」の現象も豊富な資料をもとにわかりやすく話された。

［みちのく散歩みち］

講師は民俗学研究家の成田敏氏。

第 1 講　5 月 20 日（火）

「陸奥湾南岸の産業と歴史」と題し、青森県総合水産研究所、椿山、平内町立歴史民俗資料館、県林業研究所、津軽と南部の藩境塚、野辺地戦争戦死者墓所、常夜燈、野辺地町立歴史民俗資料館、野辺地八幡宮を見学。

第 2 講　6 月 3 日（火）

「弘前の洋館巡り」初夏の日差しが眩しい中、弘前市立観光館を拠点に徒歩で近くに集中している洋館を見学。気温 30 度を超える中、青森銀行記念館、旧弘前図書館や日本キリスト教団弘前教会などを巡った。参加者 22 名は古都弘前に残る文化遺産に感動。その美しさと共に、洋館建設に携わった当時の名棟梁・堀江佐吉一族の功績にうなずいていた。

第３講　６月 24 日（火）

「下北脇野沢の自然と暮らし」6／24 当日は好天に恵まれ、青森駅から約３時間かけて脇野沢に到着。お昼は道の駅食堂で、各自が名物の猪豚ラーメンやうり坊カレーに舌鼓を打った。

午後からは、道の駅となりの野猿公苑やたら舟展示館を見学。野猿公苑は凶暴化した猿を保護しているもの。村では猿による農作物の被害で頭を悩ましており、モンキードックの導入などで、その対策をねっている。現在約２０００頭が生息しており、今後は５０００頭に繁殖される見通しで、駆除も念頭に置いている。

たら舟展示館は、閉館中であったが窓越しに見ることができ、当時の人力による木造船が数隻展示。当時の繁栄ぶりを垣間見ることができた。海はおだやかな凪が続き、マリンブルーの心地よい風に心が癒やされた。

［大自然トレッキング］

第１講　５月 22 日（木）　「雪解けの奥入瀬渓流」

小雨の中、28 名参加。三乱れの流れから銚子大滝までのトレッキング。講師は柿崎行則とオープンカレッジ所長の藤田の２人。それにアシストとして青森大学自然学校ＯＢ会の２人が自然解説を行った。

三乱れの流れ前で

銚子大滝の前で

第２講　６月５日（木）　「新緑の八幡平焼山」

秋田県の玉川温泉から焼山へのトレッキング。現地での天候に恵まれ、八幡平から遠く八甲田山系、岩木山さらに岩手山も眺望できた。植物の解説を聞きながら新緑の登山を満喫した。３５名の参加で、また、雪が残っていたため計画よりも時間がかかり、入浴時間を割愛、岩盤浴をしている湯治客を横目に帰路に立ち、名残惜しい思い出となった。

第３講　６月１９日（木）「北八甲田の春の高山植物」

田茂萢より赤倉、井戸岳を経て八甲田大岳へ。上毛無岱、下毛無岱を経て酸ヶ湯に降りる、高山植物を鑑賞するトレッキング。やませのため、遠くの景色は見えなかったが、ずっと高山植物の大群落が観られ、２６名の参加者は大満足であった。見られた高山植物を列挙すれば、チングルマ、イワカガミ、コケモモ、アカモノ、イワイチョウ、ガンコウラン、ムラサキヤシオツツジ、ヒナザクラ、ミヤマキンバイ…。例年は秋に行っているコースであるが、春は違った花が豊富で充実していた。毛無岱で、１４時前から雨となり、急きょ下山して酸ヶ湯に全員１５時に到着。ゆっくり温泉入浴をして終了となった。

珍しいヤマナメクジの交尾を観察

井戸岳山頂にて

青森大学総合研究所

[総合研究所研究発表会の開催]

3 月 24 日（月）13 時より、集いのスペース（642 教室）において開催された。

▽研究発表

①「郊外型住宅団地の地域課題とコミュニティ再生と活性化に関する調査研究」田中志子社会学部准教授

②「J-REIT における資本政策手段の規制緩和について」森宏之経営学部教授

③「社会調査における郵送とマルチ・デバイス Web アプリケーションの比較」小久保温ソフトウェア情報学部准教授
④「古典的テスト理論と項目反応理論を応用した相補的分析手法」澁谷泰秀社会学部教授

▽総合研究所主催の研究発表会の趣旨

青森大学総合研究所がこれまで培ってきた研究の伝統を継続すべく、本学の教員が行っている研究を発表する場の提供が大きな目的の一つである。各分野の主要学会に発表する前に、自分の同僚研究者からフィードバックを得て、研究の方向性や手法を改善したり、発表会の討論を踏まえて研究発表の要点を修正したりすることも望ましい研究発表会開催の効果である。今後は総合研究所で研究グループを結成し、本学として恒常的に科研費などに申請できる本学独自の専門分野の開発を目指していきたい。研究発表会が、上記のように本学の研究活動の活性化の一助となれば幸いである。

（３月部長会資料より）

[青森大学付属総合研究所紀要の発行]

青森大学付属総合研究所が発行してきた研究年報は、平成 23 年度・24 年度と休刊していたが、平成 25 年度に青森大学付属総合研究所紀要として、電子ジャーナルにて 3 月 31 日付で復刊した(下記)。

・青森大学付属総合研究所紀要（第 16 巻 1 号 ; 平成 26 年 3 月 31 日）“Journal of Aomori University Multidisciplinary Research Institute, Vol16(1)”

掲載論文

① 『社会調査の入力ミス発生率について』吉村 治正・小久保 温・澁谷 温・澁谷 泰秀・渡部 諭
② 『社会調査における郵送とマルチ・デバイス Web アプリケーションの比較』小久保 温・澁谷 泰秀・吉村 泰秀・吉村 治正・渡部 諭
③ 『幸畑団地における居住動向の変化と域課題』櫛引素夫・菅勝彦・赤石祐介・一戸佑成・金子将平・木村安度・黒滝健太・神政範・三上聖矢・宮本康佑・森内海

（５月部長会資料より）

経 営 学 部

[国際交流活動： 2014 年外国語教育研究発表会]

2014 年 2 月 5 日に、標記の発表会が開催され、昨年度行われた語学海外研修の概要と意義が報告された。

国際化が進むによって、大学生の外国語学習はますます大事な科目と思います。孔子が「学而時習之」という、学ぶとは習った知識を実践する事です。私は語学の学習に実践の大切さを考え、今回の語学海外研修を計画しました。

訪問した佛光山大学と義守大学は佛光山本栖寺の住職釈満潤法師の紹介でした。富士五湖本栖湖邊にあるこのお寺の本山は台湾の高雄にあります。教育、文化、人的交流を重視し、多方面の救済ボランティア活動を行っています

- 2 月 27 日　成田空港　2：00　ｐｍ　出発
- 桃園空港　5：00　ｐｍ　到着
- 夜市観光　泊台北
- 2 月 28 日　佛光山大学（宜蘭）を訪問
- 夜市観光　泊宜蘭
- 3 月 1 日　宜蘭市内観光、台湾文化村見学　泊台北
- 3 月 2 日　故宮博物院・小人国・新竹燈會(ねぶた参加)　泊台北
- 3 月 3 日　台湾新幹線で高雄へ
- 佛陀記念館を見学　泊高雄
- 3 月 4 日　佛光山寺の華厳世界、美術館　泊高雄
- 3 月 5 日　義守大学(高雄)を訪問、授業参加　泊台中
- 3 月 6 日　台中自然科学博物館
- 桃園空港　3:00ｐｍ　出発　帰国

（参加者）

青森大学教員

江川静英　教授

青森大学ソフトウェア情報学部

今　　北斗 君

杉田　　駿介 君

青森大学卒業生

水木 望峰子さん

中央大学

南郷 周英　君

（江川静英　教授）

[日本商工会議所主催　簿記検定試験]

平成 26 年 2 月 23 日（日）に実施された第 136 回日本商工会議所検定試験において、
2 級合格者は該当者がなかったが、3 級合格者は見事 3 名の合格者が出た。
3 級合格者

経 25027：　木村　大翼
福祉 23011：菊池　貴光
薬 24007：　小笠原大樹

中でも 3 級合格者の経営学部 2 年の木村大翼君は 82 点の高得点で見事合格した。
早くも 2 級取得に向けての意気込みを見せていた。年度内での検定試験はこれで全て終了した。25 年度の反省として 2 級合格者は残念ながら該当者なしとなったが、3 級合格者は過去最高の 9 名の合格者がでた。26 年度はこの 3 級合格者を何とか 2 級に押し上げるよう徹底した指導を考えている。

近年一般学生が減少傾向にあり検定試験の成果を上げるには厳しい環境にあるが、
今後大学理念に基づいた親身になっての個々の指導を徹底し、「簿記会計の青森大学」というイメージ・アップを少しずつでも広めていければと考えている。

（恵良二郎　准教授）

[簿記会計２級・３級補習授業の実施]

2 級、3 級受講者（経営学部 4 名、社会学部 1 名、ソフト情報学部 1 名の合計 6 名）を
対象に 5 月の第 3 週、第 4 週、第 5 週の火曜日及び木曜日の 16:20～17:30 迄と
6 月の第 1 週の火曜日及び木曜日の 16:20～17:30 迄の通算 8 回実施した。
内容は日本商工会議所２級及び 3 級の予想される個別仕訳と直前予想問題を中心に実施した。

（恵良二郎　准教授）

[平成 25 年度経営学部学生研究発表大会]

2014 年 1 月 2 7 日（月）、6 号館記念ホールにおいて、掲題が開催されました。各専門ゼミの代表者が卒業研究について熱心に発表、その後、活発な質疑応答が行われました。学長、学部長、学科長による審査の結果、各賞が以下の通り選出されました。
最優秀賞：相馬 勇斗「日本の長期デフレの原因と現政策の可能性」（沼田ゼミ）
優秀賞：高橋 征秀「青森県の漁業の現状・課題・展望」（井上ゼミ）
優秀賞：本多 彩乃「テニスが社会に与える経済効果」（櫛田ゼミ）

（中村　和彦　准教授）

[経営学部スポーツ大会]

6 月 13 日(金)4・5 限目に表題を開催。全 22 チームの参加を得、トーナメント方式のバレーボール競技を行った。入賞チームは 1 点を争う白熱したゲームが続き、どこが勝ってもおかしくない好ゲームを展開してくれた。予定された時間通りケガなく無事終了したことを報告します。

＜成績＞　優勝:恵良ゼミ、準優勝:櫛田ゼミ、3 位:田村ゼミＡ

(中田吉光　准教授)

[東日本学生新体操選手権大会]

5 月 9～11 日、栃木県立県南体育館において表題が開催されました。

団体競技において本学Ａチームが優勝、Ｂチームが３位に入賞いたしました。個人総合選手権においては、永井直也（経１）が３位と銅メダル、５位福士俊輔（経４）、６位佐藤秀平（経４）、７位藤原大貴（経４）、８位鈴木仁（社３）とそれぞれ入賞いたしました。永井に関しては種目別リングで優勝をしております。(中田吉光　准教授)

[教務委員会活動]

学部間提携の推進と資格取得強化のための取り組み

平成 25 年度、経営学部教務委員会では、カリキュラム改訂に際して基本コマ数を設定し、学部教員が基礎スタンダード、地域貢献科目に参加することを奨励した。また戸塚　茂雄経営学部長から崎谷康文学長にむけて、「経営－ソフトウェア学部間の提携事業」について提案がなされ、基本情報技術者試験午前試験免除制度の導入準備が進められた。これにもとづき平成 26 年度より「基本情報技術者試験午前免除制度」が、経営学部の経営情報システムコースとソフトウェア情報学部との間で共同運営・管理される運びとなった。今後とも資格取得強化のための取り組みを他学部間で深め、既存コースを強化・改善し続けるための継続的な取り組みが必要である。

その他にも経営学部教務委員会では、教員・職員間の教職連携の実施必要性、教員ワークバランスの調整を柱に議論をすすめ、また全学教務委員会に対しては、年次事業計画案の策定、学部ごとのボトムアップ（現場主導的）な COC 活動（九州産業大学モデルの導入）の展開、４限制時間割の再検討の必要性などを提案している。（岩淵護　准教授）

[経営学部開設 45 周年記念号の発刊]

2014 年 2 月『青森大学創立 45 周年、経営学部開設 45 周年号』を刊行した。40 周年に続くもので、論文 12 本、研究ノート 2 本からなる。経営学部、青森大学のさらなる飛躍を込めた記念行事である。(戸塚茂雄　教授)

[人物往来]

2013年9月経営学部は、渡部あさみ氏を専任講師にお迎えした。氏は高崎経済大学経済学部を経て、同大学院経済・経営学科現代ビジネス専攻博士前期課程、明治大学大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程を修了し、2012 年度明治大学経営学部助手を務められた。人事労務管理論専攻。なお氏は 2014 年 3 月明治大学より「1990 年代以降における正規ホワイトカラー労働者の長時間労働と労働時間管理に関する研究―日本企業における人事労務管理のフレキシビリティと長時間労働―」で経営学博士号を授与された。

2014 年 4 月経営学部は、堀籠崇氏を准教授にお迎えした。氏は立命館大学経済学部、東北大学大学院経済学研究科経営学専攻博士前期課程、同後期課程を修了し、2013 年 4 月より北杜学園法人本部事業推進部に務められていた。なお 2009 年 3 月「日本型医療システム形成に関する史的研究―占領期医療制度改革の現代的意義」で東北大学より経営学博士号を授与されている。日本医療経営専攻。

新進気鋭のお二人を迎えた。お二人には経営学部の一層の発展に尽力願いたい。

(戸塚茂雄　教授)

[著書、論文、研究ノート、評論・書評、寄稿、調査報告書など]

赤坂道俊　平成 26 年 1 月 1 日「TPP 加盟は青森県農業に深刻な影響を及ぼす」『りんごニュース』（公益財団法人青森県りんご協会）第 2943 号、平成 26 年 1 月 1 日。

平成 26 年 1 月 11 日「中心街活性化の鍵」「あおもり経済未知しるべ」〈85〉」『東奥日報』、平成 26 年 1 月 11 日、朝刊。

平成 26 年 2 月 15 日「食の外部への依存」「あおもり経済未知しるべ」〈90〉」『東奥日報』、平成 26 年 2 月 15 日、朝刊。

平成 26 年 3 月 22 日「攻勢続く 100 円ショップ」「あおもり経済未知しるべ」〈95〉」『東奥日報』平成 26 年 3 月 22 日、朝刊。

平成 26 年 4 月 26 日「日豪 EPA 合意の背景」「あおもり経済未知しるべ」〈100〉『東奥日報』平成 26 年 4 月 26 日、朝刊。

平成 26 年 5 月 31 日「コンビニによる業態革新」「あおもり経済未知しるべ」〈105〉」『東奥日報』平成 26 年 5 月 31 日、朝刊。

平成 26 年 4 月 1 日「負担軽減は不十分 影響は大」【消費増税 県内識者に聞く】『東奥日報』、平成 26 年 4 月 1 日、朝刊。

五十嵐則夫　2014 年 2 月「経営家族主義と科学的管理」青森大学『研究紀要』Vol.36-3。

井上隆　「コンパクト化見通す目-佐々木誠造に聞く‘都市経営’-」『東奥日報』2014.1.9.

(書評：佐々木誠造著『まちづくり･人づくり･意識づくり』2013.10.泰斗舎刊)

「東日本大震災時における企業行動と復旧・復興過程」，青森大学『研究紀要』第 36 巻第 3 号(通巻 118 号)，pp19-39，2014.2.1.

「大震災時における八戸圏域の企業行動(1)」『青森県保険医新聞』No.638，2014.3.1.

「大震災時における八戸圏域の企業行動(2)」『青森県保険医新聞』No.639，2014.4.1.

『屋台村的空間‘ザ･あおもり’の創出 －新たな食等の提供業態創造調査報告書－ 』、青森商工会議所発行、2014.3.31

櫛田豊　「サービス生産物の経済的性格について（再論・上)」青森大学『研究紀要』第 36 巻第 3 号(通巻 118 号)，2014 年 2 月 1 日

恵良二郎　「法人税法における減価償却の会計処理」青森大学『研究紀要』第 36 巻第 3 号 2014 年 2 月

田村早苗　「森林環境 2014　森と歩む日本再生」（共著、森林文化協会）

「平成 25 年度「緑の雇用」現場技能者育成対策事業の評価等に関する調査報告書」（共著、全国森林組合連合会）

戸塚茂雄　「『過剰富裕化と過剰労働時間 第 2 版』補遺」青森大学『研究紀要』第 36 巻第 3 号、2014 年 2 月

沼田郷　「受託製造における台湾企業の台頭」青森大学『研究紀要』第 36 巻第 3 号、2014 年。

渡部あさみ　「東北地方における労働力確保へ向けた人事労務管理に関する一考察-A県M銀行における『働きやすい職場』づくりへ向けた取組を手掛かりに-」青森大学『研究紀要』第36巻第3号(通巻118号)、pp.195-218、2014。

[学会報告、学会活動など]

恵良二郎　日本貿易学会第 54 回全国大会
日付：2014 年 5 月 31 日～6 月 1 日（2 日間）
場所：和光大学キャンパス
テーマ：「日本とアジア市場の貿易・投資環境の新展開」

田村早苗　2014 年 3 月　第 125 回日本森林学会口頭発表（大宮市）

沼田郷　2014 年度　多国籍企業学会監事

渡部あさみ　「日本における長時間労働問題と労働時間管理」ビジネス・イノベーション研究所第 57 回研究会・所員会議、2014 年 5 月。

[外部資金獲得など]

井上隆　助成機関：一般社団法人 日本酪農乳業協会
募集事業：平成 26 年度「乳の社会文化」学術研究公募
受 託 者：佐々木純一郎、井上隆、谷口清和、竹ヶ原公
研究課題：「函館酪農公社」移動販売車に見る買い物過疎地域への社会貢献的役割の研究
委託金額：1,000 千円、調査･研究期間：平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

沼田郷　科研費　基盤 C「日本と台湾における光学産業の成長と連鎖」2,600 千円
（研究代表）

渡辺あさみ　科研費　若手研究 B　「先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理」780 千円　（研究代表）。
基盤 C　「日本企業の市民社会化の研究―経営の共同体モデルから市民社会モデルへ」170 千円（研究分担者）。

[社会活動、地域活動、講演など]

赤坂道俊　平成 26 年 1 月 24 日「TPP と行政書士（士業）～TPP は復興に役立つか？」主催：宮城県行政書士会石巻支部、於：石巻市「大もりや 3 階リボンホール」。
平成 26 年 1 月 31 日「TPP が本県農業に与える影響」青森県りんご協会、平成 26 年冬期りんご講座、於：青森県リンゴ協会講堂。
平成 26 年 3 月 6 日　青森県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会（会長）、於：青森職業訓練支援センター視聴覚室。
平成 26 年 3 月 6 日　青森地方最低賃金審議会（会長代理）、於：ラ・プラス青い森
平成 26 年 3 月 25 日　青森県地域連携型起業家創出事業実行委員会、於：アスパム。
平成 26 年 5 月 16 日「コンビニと 100 円ショップ―小売業の成長と経営革新」オープンカレッジ：市民大学講座、於：青森大学。

井上　隆　1 月　青森市中心市街地活性化協議会 第２回運営委員会、副座長、商工会議所(1/20)
２月　新たな食等の提供業態創造調査研究会、会長、青森商工会議所(2/4)
２月　青森市健康福祉部 青森市福祉有償運送運営協議会、会長、市庁舎(2/13)
２月　青森市都市整備部 青森市総合都市交通対策協議会(H25 年度第 2 回)、会長、青森市福祉増進センター(2/20)

２月　RAB・ニュースレーダー‘青森県・平成 26 年度予算案’コメンテーター(2/20)
３月　青い森鉄道筒井新駅開業式、来賓参加、青森市筒井３丁目筒井駅(3/15)
３月　新たな食等の提供業態創造調査研究会、会長、青森商工会議所(3/24)
３月　青森市都市整備部 青森市総合都市交通対策協議会(H25 年度第 3 回)､会長､青森市福祉増進センター(3/27)
４月　NPO法人ひろだいリサーチ拡大理事会･兼･広域青函圏研究会(平成26年度第１回)、(一財)青森地域社会研究所(4/4)
４月　広域青函研究会現地調査、視察/訪問先：函館酪農公社、函館市役所経済企画課、函館商工会議所地域振興課、公立はこだて未来大学社会連携センター(4/17～18)
５月　広域青函研究会現地調査、視察/訪問先：函館酪農公社青森営業所(5/1)
５月　青森市中心市街地活性化協議会･平成26年度総会、副会長、商工会議所(5/14)講話：「新たな食等の提供業態創造調査事業」､「中心商店街賑わい創出事業」
５月　函館酪農公社「移動販売車」営業態様、青森⇔深浦、同行実地調査(5/23)
５月　東北財務局青森財務事務所･川名義章所長による「社会保障と税の一体改革」に関する個別ヒアリング(5/30)
５月　広域青函研究会調査活動として、(一社法人)日本酪農乳業協会主催・学術フォーラムにて資料収集・情報収集活動．丸ビルホール(5/31)
６月　青森県県土整備部建築住宅課 県営住宅等指定管理者審査委員会、県庁西棟(6/2)
６月　青森市都市整備部 青森市総合都市交通対策協議会(H26年度第1回)、会長、青森市福祉増進センター(6/25)

櫛田 豊　６月　「平成 26 年度青森県スポーツ施設指定管理者審査委員会」座長，青森県庁北棟 5 階
６月　「平成 26 年度青森県消費生活審議会」座長，ラ・プラス青い森３階

田村早苗　１月　青森県内水面漁業管理委員会現地調査（小川原湖）
（一財）日本森林林業振興会理事会（東京）
２月　青森市地域における再生エネルギーの利用と普及に関する調査研究委員会（青森市）
全国森林組合連合会「緑の雇用」評価調査委員会（東京）
３月　青森県内水面漁業管理委員会（青森市）
農林水産省独立行政法人評価委員会林野分科会(東京)
農林水産省入会林野コンサルタント中央会議（東京）
５月　青森市地球温暖化防止協議会（青森市）
６月　青森県公共事業評価委員会（青森市）
（一財）日本森林林業振興会理事会（東京）
農林水産省独立行政法人評価委員会林野分科会(東京)

中田吉光　平成 25 年 12 月 19 日～26 年 1 月 27 日　オランダ（アムステルダム 4 公演）、ドイツ（23 都市 38 公演）で演技を披露する。延べ 20 万人以上が来場した。
平成 26 年 1 月 2 日　映画「FLYING BODIES」（新体操部のドキュメンタリー映画）をＢＳフジで全国放送。6 月現在、金沢で上映中。映画祭（DANCE CAMERA WEST ロサンゼルス）に出展。
平成 26 年 2 月 7･8 日　リンクステーションホール（文化会館）において新体操の舞台「B

ＬＵＥ Vol.2」を 2 日間 3 公演行い 3000 人の集客を得た。

平成 26 年 2 月 15～16 日　男子新体操全国合同合宿及び審判講習会東北会場（宮城：ホワイトキューブ）の主催者として行った。

平成 26 年 2 月 17 日　（公財）日本体操協会全国代表者連絡会議（国際フォーラム、全国高等学校体育連盟体操専門常任委員合同会議（銀座キャピタルホテル)、共に男子新体操委員会委員長として出席。

平成 26 年 3 月 12 日　埼玉文化会館において埼玉県昌平中学高等学校芸術鑑賞会として演技会（ミニＢＬＵＥ）を行う。

平成 26 年 3 月 13 日　全日本学生体操連盟及び関東・東北北海道学生体操連盟役員総会（岸記念体育館）

平成 26 年 3 月 21～23 日　全国高等学校新体操選抜大会 主任審判員（岐阜市）

平成 26 年 3 月 26～28 日　第 14 回全国体操小学生大会 競技役員長（茨城県大洗町）

平成 26 年 4 月～　「元気あっぷる体操」をＮＨＫ青森と制作。平均寿命が全国最下位の青森県。「脱！短命県」のキャンペーンとして県内 40 市町村を回り地域の人たちを触れ合う企画を作成、進行中。

平成 26 年 5 月 16 日　大阪市教育センターにおいて、平成 26 年度大阪市立高等学校教育研究会保健体育部会において講演する。

平成 26 年 5 月 26 日　エフエム青森において学生 2 名とともに知事との対談を収録する。（6/1、7 時放送）

平成 26 年 5 月 29～6 月 1 日　第 12 回全日本新体操ユースチャンピオンシップ・第 5 回男子新体操団体選手権の主任審判員（東京体育館）

平成 26 年 6 月 20～22 日　東北高等学校総合体育大会審判員予定（福島国体記念体育館）

沼田　郷　　2014 年〈隔週連載〉東奥日報　ニュース力アップ

１月　青森大学地域貢献賞 優秀賞受賞「青森中心商店街にぎわい創出事業」沼田チーム

１月　東奥日報　朝刊　14 面　「商店街の活性化を応援したい」　沼田チーム特集

２月　夜店通り振興組合会合参加　今後の活動方針について（商店街新聞の発行と商店街マップ作成）

２月　商店街新聞「どさ？yOMISE さ！」発行（創刊号）　10 日

３月　青森大学・青森市　包括的連携協定締結記念　第 1 回青森地域フォーラム～青森の今と未来を考える　　活動報告：「中心商店街にぎわい創出」

３月　商店街新聞　「どさぁ？yOMISE さ」発行（第２号）

４月　商店街新聞　「どさぁ？yOMISE さ」発行（第３号）

社 会 学 部

社会学科・社会福祉学科

[社会学部国家試験対策委員会]

平成 26 年 1 月の社会福祉士、精神保健福祉士国家試験の結果は下記の通りです。学生個々人の意欲が高く、グループ学習を夜遅くまで行っていたことが印象的です。

平成 25 年度	
社会福祉士	精神保健福祉士
23.5% （17 名中 4 名）	81.8% （11 名中 9 名）
全国平均 27.5%	全国平均 58.3%
※ダブル合格 4 名（6 名中）	
平成 24 年度	
15% (20 人中 3 人)	45.5% (11 人中 5 人)
全国平均 18.8%	全国平均 56.9%
※ダブル合格者 3 名	

平成 26 年度は、4 年ゼミを中心に国家試験受験のための勉強を行い、前期に数回の模擬試験を実施する予定です。また、苦手科目を中心に夏季集中補講を委員担当の先生が行う予定になっています。模擬試験結果は学生にフィードバックし、苦手科目の克服と得意科目を伸ばすことに役立てることにしています。6 月は 4 年生のソーシャルワーク実習があり、試験勉強に集中できていませんが、受験説明会や受験手続きの機会を利用し意欲を引き出し、夏季休業中の勉強を後押ししていきたいと考えています。 (藤林正雄)

[精神保健福祉援助実習]

平成 25 年度は 12 名の学生が無事実習を修了しました。このうち 2 名は、過年度実習保留となり実習を補充した学生、3 名はダブルライセンス取得のため 4 年生で実習した学生です。

今年度は、5 名の学生が実習を予定し、すでに 3 名は第 1 段階実習(5 日間)を終えています。夏季休業期間から後期にかけて第 2 段階実習(24 日間)を予定しています。今年度は、旧カリキュラムによる実習と新カリキュラムによる実習が混在しているため、新カリキュラムに統一して実習行うことにしています（実習時間・実習期間等では規定を満たしています)。(藤林正雄)

[社会調査士 13 名が認定]

一般社団法人社会調査協会の認定する社会調査士資格の認定結果が 6 月 1 日に公表され、本学からは新たに 13 名の社会調査士が誕生しました。例年よりも取得者数が多く、この調査資格が社会学部に根付いてきたことがわかります。

この資格は社会学科で開講する所定の科目を履修することで、卒業後に社会調査士の資格を得るものである。これで本学出身の社会調査士は総計 55 名となり、2004 年に制度を導入し、2008 年に初の認

定者を出して以来、本学では毎年着実に認定者数を増加させています。今後も担当教員一同、社会調査士の資格を多くの学生が取得できるよう、指導していきたいと考えています。　　(佐々木　てる)

[3 年生対象就職ガイダンス]

5 月 29 日(木)4 時間目に 350 教室にて就職活動方法として社会学科 3 年生対象の就職ガイダンスを学部の教員主催にて実施しました。今回のガイダンスは 3 年生にとって実質的には第一回目の就職ガイダンスになりますが、リクナビやマイナビなどの登録を 3 年生に行ってもらったとともに、この学年から就職期間が短期化することから、今後しっかりと準備して、悔いのない就職活動を行うように指南しました。　　担当は、櫛引素夫、美濃香、佐藤豊

[公務員(青森県警)志望者対象ミニセミナーの開催]

学習支援センター・ミニセミナーの企画として 6 月 25 日（水）4 時間目に 633 教室にて「公務員(青森県警)志望者対象ミニセミナー」を実施しました。この企画は NPO 法人プラットフォームあおもりの支援を受けて行われましたが、青森県警本部からは人事採用担当として警務課主幹釜石充氏と若手職員からは青森警察署巡査長、葛西宏政氏(青森大学社会学部社会福祉学科卒業)を招いて、学生の参加は少なかったのですが、内容は学生からも質問が出てきて、非常によかったと思います。

[学生研究発表大会が開催される]

平成 26 年 1 月 23 日（木)、2013 年度、社会学部学生研究発表大会（主催：青森大学学術研究会）が、図書館新館 3 階視聴覚室にて開催された。大会では、3 年生 2 報告（櫛引ゼミ、久慈ゼミ)、4 年生卒業論文 6 報告（佐々木ゼミ）が行われ、これらの報告に対し、13 時～17 時という長時間にわたる白熱した質疑応答が展開された。

卒論のテーマは、サブカルチャーや情報、教育、地域の過疎化という現代社会が直面している問題を研究した発表であった。3 年生の報告は、今、青森大学が取り組んでいる「幸畑再生プロジェクトチーム」に関係した報告でした。最後に、菅学部長から「意義ある楽しい研究発表大会であった。この研究を土台にして社会と言う大学院で、これからも研究を継続してください」という講評と卒業生に向けたエールが贈られた。

当日の司会進行、発表者、発表テーマは、以下の通り。

司会進行：石山篤、阿部宏次郎、後藤圭太、村上皓史

発表者＆テーマ：

・社 22016　高坂明吉「趣味としての TCG」
・社 22020　笹原清大「月刊バスケットボールの考察：能代工業と田臥勇太」
・社 22019　佐々木康大「若者の進学による県外流出を考える：青森県出身学生へのヒアリング調査」
・社 22026　高野瑞基「日本の教育システムを考える：フィンランド教育に目を向ける」
・社 22044　近孝義「地域社会にみる定住外国人教育の現状と課題」
・社 22033　中沢翔馬「地域コミュニティの再興を担う消防団」
・社 23011　小野瀬早紀「幸畑団地の基礎調」／久慈ゼミ
・社 23015　黒滝健太「幸畑団地の居住環境と今後の課題」

講評　　社会学部長　菅勝彦　先生.　　(久慈きみ代)

[日本商工会議所主催　簿記検定試験]

平成 26 年 2 月 23 日（日）に実施された第 136 回日本商工会議所簿記検定試験において、社会学部より今回 1 名の合格者が出ました。3 級合格者：　福祉 23011　菊池　貴光

中でも福祉専攻という菊池貴光君は 74 点の高得点で見事合格した。早くも就活をも視野にいれて 2 級取得に向けての意気込みを見せていました。

平成 25 年度(年 3 回実施)の検定試験も今回をもって年度内の試験は全て終了しました。社会学部では今年度通算 3 級合格者はこれで 2 名となりました。　（恵良　二郎）

[1 年生の英語Ⅰ―3 組による映画制作]

今年度の 1 年生英語―3 組では、9 グループ(一グループ 5 人程度)で、英語を使って英語制作に再度挑戦しています。この制作では、英語力だけでなく、映像表現を使って学生たちの総合力にチャレンジしてもらうものですが、こうした企画で学生が少しでも自信をつけてもらえればと考えております。グループによって協同作業には若干温度差が見られ、英文のシナリオ担当や編集担当にはかなりの負担がかかっているようですが、若者ならではの表現もみられます。上映会は 7 月 19 日(土)12 時 30 分～記念ホールにて実施の予定です。

[学生の文芸作品が掲載される]

佐藤翔太朗（社会福祉学科 4 年）君の書いた文芸作品「四季　春の章」が『みちのく春秋・2014 春号』（発行所：本の館亜礼母禮）に掲載されました。　（久慈きみ代）

［ 学術論文・著書 ］ (五十音順)

櫛引　素夫　「北陸新幹線開業をめぐる地域課題－上越、富山、金沢地域の比較」青森大学紀要、36(3)、pp219-238.

櫛引素夫、菅勝彦、赤石祐介、一戸佑成、金子将平、木村安度、黒滝健太、神政範、三上聖矢、宮本康佑、森内海.「幸畑団地における居住動向の変化と地域課題」青森大学付属総合研究所紀要、15（1）, pp10-23.

櫛引　素夫　「『新幹線効果』を考える：八戸・弘前・青森」地域社会研究、弘前大学地域社会研究会編;弘前大学大学院地域社会研究科監修、7、pp135-145.

澁谷 泰秀　吉村 治正・小久保 温・澁谷 泰秀・渡部 諭（2014）.「社会調査の入力ミスの発生率について」,『青森大学付属総合研究所紀要』, 15（1）, 1－5.

澁谷 泰秀　小久保 温・澁谷 泰秀・吉村 治正・渡部 諭（2014）.「社会調査における郵送とマルチ・デバイス Web アプリケーションの比較」,『青森大学付属総合研究所紀要』, 15（1）, 6－9.

菅　勝彦　「青森市史」通史編・現代を共著.

藤 公晴　（2014）ネイチャー・ライティングの授業への導入の可能性をさぐる「青森の自然を書（描）く～ネイチャー・ライティングの授業への導入の可能性をさぐる～」特集号「環境思想・教育研究」7 号特集号.

Kimiharu To. *In Transpacific Fraternity: Peter Berg's Planet Drumming in Japan.* In Cheryll Glotfelty. and Eve Quesnel (Eds). (2014) *The Biosphere and the Bioregion: Essential Writings of Peter Berg.* Routledge

Environmental Humanities Series (Series Editor: Iain McCalman, Libby Robin). Taylor & Francis. New York. ISBN-13: 9780415704403.

藤 公晴　(共同研究)　1) Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education:　Comparison between the United States and Japan （環境教育の現場における、概念「持続可能な開発」の受容に関する日米比較調査研究）
共同研究者：Sharon Moran (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境学研究科), Andrea Parker (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境科学研究科), Beth Folta (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境森林生物学科)
2) 「先進７カ国政府（フランス、米国、英国、ドイツ、メキシコ、スペイン、日本）による環境コミュニケーション施策に関する国際比較調査研究」Agence de l'Environnement et de la Maîtrise de l'Energie　フランス政府環境エネルギー管理庁委託（€89,450 ユーロ）
研究代表者：Mathieu JAHNICH (SIRCOME, Université Paris-Est Marne-la-Vallée)

［ 学会発表など ］ (五十音順)

櫛引素夫、菅勝彦、赤石祐介、一戸佑成、金子将平、木村安度、黒滝健太、神政範、三上聖矢、宮本康佑、森内海、「郊外型住宅団地における人口の変化と空き家の状況－青森市幸畑団地の事例から－」東北地理学会春季学術大会、2014 年 5 月 18 日、仙台市戦災復興記念館.

櫛引　素夫　「整備新幹線開業をめぐる空間的・時間的課題－北陸・北海道新幹線を中心に－」東北地理学会春季学術大会、2014 年 5 月 18 日、仙台市戦災復興記念館.

佐藤　豊　「英語の授業で映画制作にチャレンジ！」、2014 年 3 月 8 日、日本比較文化学会東北支部大会、弘前学院大学.

澁谷 泰秀　小久保温，澁谷泰秀，吉村治正，渡部諭，「郵送とマルチデバイス対応 Web システムによるハイブリッド社会調査の実証実験の解析」，情報処理学会 第 76 回全国大会，2014 年 3 月 11 日，東京電機大学

澁谷 泰秀　「古典的テスト理論と項目反応理論を応用した相補的分析手法」，青森大学付属総合研究所研究発表会，2014 年 3 月 24 日，青森大学

田中 志子　「郊外型住宅団地の地域課題とコミュニティ再生と活性化に関する調査研究」，青森大学付属総合研究所研究発表会，2014 年 3 月 24 日，青森大学

[報告書・書評・寄稿など]

櫛引　素夫　「北海道新幹線開業に向けた連携態勢の整理と今後の課題－北陸新幹線の開業準備事例などから－」平成２５年度青森県商工会議所連合会補助事業「商工業に関する調査・研究事業」2014.3、p28.

櫛引　素夫　「北陸新幹線開業に思う」、2014 年 1 月 15 日付北日本新聞（富山県・県紙）朝刊寄稿.

［ 出張講義・講演など ］ （五十音順）

櫛引　素夫　青森大学オープンカレッジ「新幹線と青森の将来－『函館』に向けて『新青森』を考える」、2014 年 5 月 9 日.

櫛引　素夫　放送大学・面接授業「メディアの現状と青森の未来」、2014年5月24、25日（集中講義）.

久慈　きみ代　2014年2月1日：三沢市公会堂（第８集会室）、平成２５年度　寺山修司市民大学　最終合同講座、鼎談「寺山修司を語る」に参加（九條今日子、佐々木英明、久慈きみ代）
2014年2月27日：青森国際ホテル、青森商工会議所女性会講演会講師
演題【あおもり発クールジャパ：「源氏物語之詞（高照神社所蔵）」、寺山修司、青森ひば】
2014年3月8日：青森市リンクステーション、１回青森地域フォーラム参加「寺山修司と青森」
2014年5月4日：「修司忌」（寺山修司記念館）にて、青森大学演劇団「健康」と文芸部「幸畑文」の学生と参加。朗読詩劇、　寺山修司へのオマージュ「五月の序詞」を熱演。佐々木英明館長、舞踏家福士正一さんとのコラボ劇。

藤林　正雄　2014年1月28日　「人間関係で悩まないために」青森市大野市民センター
2014年2月18日・25日・3月7日・18日・4月22日（5回）　スーパービジョン研修　NPO法人ほほえみの会.
2014年2月20日　信頼関係を構築する傾聴の仕方を学ぼう　八戸市社会福祉協議会
2014年5月31日　傾聴講座入門　青森市男女共同参画プラザ・カダール.
（講演）
2014年2月14日　窓口担当者連絡会議　七戸町傾聴と行政の役割・コメンテーター
2014年3月5日　鶴田町自殺予防講演会　パネリスト　鶴田町
2014年3月23日　福祉サービス第三者評価調査者継続研修　利用者調査・福祉サービスの基本方針と組織　青森県社会福祉協議会
2014年5月24日　精神医療の歴史と精神保健福祉法、日本精神科看護技術協会青森県支部研修会
2014年5月27日・29日社会福祉主事認定講習会「ケースワーク論」「ケースワーク演習」青森県立保健大学
2014年6月10日・16日・19日・26日・7月3日・17日　傾聴講座　藤崎町.

［ 地域活動 ］ (五十音順)

櫛引　素夫　特定非営利活動法人青森県防災士会理事（2012年4月～）
特定非営利活動法人ひろだいリサーチ理事（2014年6月～）
新聞労連・消費税対策検討チーム・コーディネーター（2013年12月～2014年4月）
青森商工会議所・あおもり検定監修委員（2013年7月～2014年3月）
青森地方労働審議会委員（2013年9月～）
青森地方労働審議会・青森県電気機械器具製造業最低工賃専門部会委員（2013年12月～）
青森商工会議所・青森県ロジスティクス戦略ワーキング会議オブザーバー（2014年2月～）
「大学生観光まちづくりコンテスト2014」北日本ステージ運営委員（2014年4月～）
青森県情報システム課オープンデータ研究会委員（2013年8月～2014年3月）
青森県情報システム課オープンデータ検討会委員（2014年6月～）
青森県オープンデータ実践交流マッチング「税金はどこへ行った？」ワークショップ参

加（2013 年 11 月～2014 年 3 月）
青森大学・幸畑プロジェクト・メンバー（青森大学祭展示監修・幸畑フォーラム企画・居住実態調査実施・交流事業参加）
青森県住みかえ支援協議会・幸畑空き家実態調査受託（2013 年 11 月～2014 年 3 月）
幸畑団地・居住状況調査報告会報告「幸畑団地の居住状況調査について」（2014 年 2 月 8 日）
FM 青森・「ラジオで徹底討論！青森県応援フォーラム『AOMORISM』」出演（2014 年 2 月 11 日）
青森市消費者教育モデル事業・青森市「クッキー」（自立訓練・生活訓練施設）講演（2014 年 2 月 17 日）
青森商工会議所・食品部会総会講演「食を通じた街おこし」（2014 年 2 月 27 日）
青森大学・第 1 回青森地域フォーラム「青森の今と未来を考える」、報告「幸畑プロジェクト」（2014 年 3 月 8 日）
こぎんフェス実行委員会・「こぎんフェス 2014」特別記念シンポジウム・コーディネーター（2014 年 4 月 29 日）
※青森放送・幸畑プロジェクト特別番組「「幸せの畑に暮らして」（2014 年 5 月 25 日放映）出演ほか、地元・北海道のマスメディアへのコメント多数（人口減少・整備新幹線問題など）.

菅　勝彦　青森地方最低賃金審議会会長
青森地方労働紛争担当参与
日本自動車連盟青森地区安全対策委員会委員長
青森県 NIE 研究会会長
青森県 NIE 協議会副会長
青森県医療費適正化懇談会委員
青森県攻めの農林水産業賞審査委員
青森県中山間地域対策協議会委員

藤林　正雄　青森県精神医療審査会　2月、4月、6月、退院請求調査5月
青森県運営適正化委員会（苦情解決部会）3月、5月
青森県福祉サービス第三者評価調査推進委員会　3月
社会福祉法人花理事及び評議員　3月（2回）、5月
ＮＰＯ法人あおもりいのちの電話理事（研修委員長）毎月 1 回
地域密着型サービス外部評価審査委員　3 月
総説：藤林正雄、田中志子、佐々木てる、宮川愛子「鶴田町心の健康調査報告書」ダイジェスト版　鶴田町 2014.2.

藤　公晴　青森県環境審議会.

ソフトウェア情報学部

[平成 25 年度卒業研究発表会]

卒業研究発表会が、2 月 20 日（木）9:00～14:40 に本学 5 号館 5102 教室で開催され、11 研究室 25 名の学生が発表を行った。情報システム、ＣＧ・マルチメディア、ロボット・組込みシステムの各々の分野で取り組んできたテーマについて、実演を交えながらプレゼンテーションが行われ、これに対して、学生、教員から多くの質問が出され活発な質疑応答がなされた。

[平成 25 年度卒業生の民間企業就職率 100％を達成] (李 孝烈、橋本 恭能)

平成 26 年 3 月に卒業したソフトウェア情報学部学生の民間企業への就職を希望する学生の就職率が 100％となりました（5 月 1 日付)。昨年度に比べて、8. 3%の増加となっています。就職した学生の内、8 名が IT 関連企業および製造会社に就職しました。さらに、青森県内就職者は全体の 50％となっています。

ソフトウェア情報学部では 3 年生から研究室配属が実施され、3、4 年の 2 年間を通しての研究室ゼミにおける就職指導が成果を表したものと考えられます。また、就職委員による 4 年次における就職についての面談実施も有効であったと思われます。

[第 3 回学びの森市民セミナー開催]（堀端 孝俊）

5 月 24 日（土）に第 3 回学びの森市民セミナーが本学 6 号館記念ホールで開催されました。本セミナーは青森大学と青森明の星短期大学が相互のカリキュラムの充実と地域住民への生涯教育の推進を目的として、昨年から開催されています。今年度は第３回目として東北大学薬学部の大島吉輝先生をお招きし「自然のなかの薬」という演題でご講演をいただきました。当日は本学の学生を中心に約 240 名の来場者があり、葛根湯やアスピリンなど日常私たちの生活になじみの深い薬の話題や、有毒植物で有名なトリカブトから漢方薬ができることなど、日頃薬にはあまり関心のない学生たちにとっても興味がもてる内容でした。

[佐藤君が CG-ARTS 賞を受賞] (緑川 章一)

ソ 24013 佐藤優君が、「2013 年(平成 25 年 度)CG-ARTS 賞」を受賞しました。同賞は、CG-ARTS 協会の認定教育校表彰制度に基づいて、協会検定試験や CG・Web・画像処理・マルチメディアにおいて学業優秀な学生 1 名に CG-ARTS 協会より送られるものです。

[第 1 回日本水環境学会東北支部研究発表会 優秀発表賞受賞] (對馬 勇太、中村 開、角田 均)

第 1 回の水環境学会東北支部研究発表会が 1 月 11 日に東北大で開催され、ソフトウェア情報学部 4 年生の對馬勇太と中村開による共同研究の発表「環境教育のための 3 次元地理情報システムの機能開発」が優秀発表賞を受賞した。

六ヶ所村立尾駮小学校 4 年生による尾駮沼の自然観察学習の成果を、ソフトウェア情報学部で開発した 3 次元地理情報システム「デジタル青森」の上に立体的に表示させるシステムを開発、小学校での展示とアンケート調査を行った結果を報告した。

研究会では主に東北地区の大学で水環境研究に取り組む大学院生と学部 4 年生の個人・グループ 19 組が発表を行い、本研究は最優秀発表賞に次ぐ優秀発表賞を受賞した。

受賞状況は以下の通り。

・最優秀発表賞 齋藤他(東北大)

・優秀発表賞 對馬他(青森大)、菅生他(東北大)、森他(日大院)

今年度はこの成果を受けて尾駮小学校との連携を継続するとともに、新たなシステム構築に向けて学部 3 年生を中心に研究を進めている。

なお本研究は日本水環境学会東北支部と環境科学技術研究所の協力を得て進められている。

[福島ゲームジャム in 文化庁メディア芸術祭](小久保 温)

東日本大震災から復興を IT の力で支援しようと、毎年夏に福島県で開催している福島 GameJam が、第 17 回 文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品に選出された。

受賞作品展の期間中である 2 月 8 日(土)、9 日(日)に国立新美術館にて、ゲーム制作のワークショップ「福島ゲームジャム in 文化庁メディア芸術祭」が開催され、教員の小久保温が、ゲーム開発者として参加した。

[青森県実践交流マッチング] (小久保 温)

2 月 24 日、あおもり IT 活用サポートセンターによる平成 25 年度青森県実践交流マッチング事業が、青森大学で開催され、ソフトウェア情報学部の学生が参加した。

「現場で活躍できる「実践力」を身につけよう」というテーマで、プレゼン力・提案力を磨く、アプリの企画を考える、IT の現場の話を聞くといったワークショップが開催された。

[青森商業高校課題研究] (小久保 温、角田 均)

高大連携の一環として、青森商業高校 3 年生の課題研究の技術指導を実施している。

今年度は、「スマートフォン対応 Web サイトの制作」をテーマに、具体的には青森商業高校の文化祭の Web サイトを高校生が制作するという内容ですすめている。

ソフトウェア情報学部でスマートフォン対応 Web サイトの研究に取り組んでいる学生などによる、高校生の技術指導を 4 月 18 日(於・青森商業高校)、5 月 2 日(青森大学)、5 月 16 日(青森大学)、6 月 13 日(青森大学)に実施した。

[流山オープンガーデン 2014](小久保 温)

5 月 18 日-20 日に開催されたイベント「第 10 回流山オープンガーデン」に、ソフトウェア情報学部で開発した散策型観光支援モバイル Web アプリケーションを提供した。

このイベントは、市民が自宅の庭を公開するもので、千葉県流山市で毎年開催されている。

https://nagareyama-opengarden-2014.herokuapp.com/

[オープンデータの取り組み](小久保 温)

青森県平成 25 年度実践交流マッチング事業に、青森大学ソフトウェア情報学部と富士通システムズ・イーストが連携して提案し、採択された。提案内容は、オープンデータの代表的な取り組みの一つである「税金はどこへ行った？」の青森県内市町村版を、大学生が社会人と交流しながら制作し公開することを通じ、人材を育成するというものであった。この取り組みには、ソフトウェア情報学部の教員・学生が参加しただけでなく、社会学部の柏谷至先生、櫛引素夫先生にもご協力いただいた。

平成 25 年中には、11 月 14 日、12 月 2 日にワークショップを開催し、「税金はどこへ行った？」の青森県版と青森市版を試作し、公開した。

平成 26 年には、以下のトピックスがあった。

○オープンデータ推進活用フォーラム 2014

1 月 23 日にアスパムで「オープンデータ推進活用フォーラム 2014」が開催された。

3 年生の船越貴裕、今北斗、三上絢佳と教員の小久保温が、青森大学の平成 25 年度のオープンデータの取り組みを紹介した。また、2 月 22 日の International Open Data Day 2014 in AOMORI への参加を呼びかけた。

○International Open Data Day 2014 in AOMORI

2 月 22 日に青森大学を会場に「International Open Data Day 2014 in AOMORI」が青森大学、青森県、NPO 地域情報化モデル研究会の共催で開催された。イベントでは、青森大学ソフトウェア情報学部の学生が、青森県内の IT 企業、NPO、行政の方たちと一緒に青森県内市町村版「税金はどこへ行った？」の制作と公開に取り組んだ。40 名以上の参加者があった。

参加した IT 企業は、株式会社サン・コンピュータ(八戸市)、マルマンコンピュータサービス株式会社(弘前市)、株式会社富士通システムズ・イースト(青森市)、株式会社青森共同計算センター(青森市)であった。

公開した「税金はどこへ行った？」は以下の 7 つである。

・青森県 http://aomori-prefecture.spending.jp/
・青森県青森市 http://aomori-city.spending.jp/
・青森県弘前市 http://hirosaki-city.spending.jp/
・青森県黒石市 http://kuroishi.spending.jp/
・青森県五所川原市 http://goshogawara-city.spending.jp/
・青森県むつ市 http://mutsu-city.spending.jp/
・青森県平川市 http://hirakawa-city.spending.jp/

○「あおもり県庁なう」出演

3 月 12 日にインターネット中継による青森県庁の広報番組「あおもり県庁なう」に、3 年生の船越貴裕、今北斗と教員の小久保温が出演した。番組では、平成 25 年度の青森大学のオープンデータの取り組みを紹介した。

○オープンデータ流通推進コンソーシアムより表彰

3 月 13 日に、オープンデータ流通推進コンソーシアムより、International Open Data Day 2014 の開催により、オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパンおよび開催地域(含む青森会場)が、2013 年度のオープンデータに関する優れた取り組みの表彰で、最優秀賞に選ばれた。

○青森県新時代 IT ビジネス研究会より表彰

3 月 25 日付けで、International Open Data Day 2014 in AOMORI のスタッフの学生たち 13 人が、青森県新時代 IT ビジネス研究会のオープンデータ検討部会から、「税金はどこへ行った？」のサイトの立ち上げを通じ青森県内へのオープンデータの普及啓発と利活用促進に大きく貢献したとして表彰された。4 月 30 日に青森県庁にて、代表して 4 年生の船越貴裕、今北斗、三上絢佳、2 年生の澤田洋二が賞状を受け取った。

[活動報告]

「レクチャーコンサート・イン・シュトラウス Vol.2」 ～シューベルトのひととき
2014 年 1 月 31 日＜青森市シュトラウス＞（白岩 貢）

「東吾妻町婦人会教養講座「バリトンの調べ～四季を歌う」」
2014 年 2 月 10 日＜群馬県東吾妻町コンベンションホール＞ （白岩 貢）
「白岩　貢　バリトンリサイタル」 ～ドイツリートの系譜をたどって
2014 年 2 月 15 日＜弘前市喫茶れもん＞ （白岩 貢）
「市民オペラ「夕鶴」」～運ず役
＊青森市戦略的中心市街地活性化事業補助金事業
2014 年 3 月 21 日・23 日＜青森市ブラックボックス＞（白岩 貢）
「ライオンズクラブ国際協会 332-A 地区年次大会 2014」～ミニ・コンサート
2014 年 5 月 11 日＜ホテル青森＞（白岩貢）
「青森商工会議所女性会総会」～ミニ・コンサート
2014 年 6 月 6 日＜ホテル青森＞（白岩貢）

[論文]

・吉村治正、小久保温、澁谷泰秀、渡部諭、「社会調査の入力ミスの発生率について」、青森大学付属総合研究所 紀要 第 15 巻 1 号 pp.1-5、2014 年 3 月
・小久保温、澁谷泰秀、吉村治正、渡部諭、「社会調査における郵送とマルチ・デバイス Web アプリケーションの比較」、青森大学付属総合研究所 紀要 第 15 巻 1 号 pp.6-10、2014 年 3 月

[研究発表]

・對馬勇太、中村開、角田均、三上一(元青森環境管理事務所)、千葉信親(六ヶ所村立尾駮小学校)、坂本光(六ヶ所村立尾駮小学校)、「環境教育のための 3 次元地理情報システムの機能開発」、第 1 回日本水環境学会東北支部研究発表会、2014 年 1 月 11 日
・小久保温、澁谷泰秀、吉村治正、渡部諭、「郵送とマルチデバイス対応 Web システムによるハイブリッド社会調査の実証実験の解析」、情報処理学会第 76 回全国大会 1G-4、東京電機大学、2014 年 3 月 11 日
・角田均、三上一(元青森環境管理事務所)、「3D GIS による水質の可視化と分析(I) -岩木川水系の流域可視化-」第 48 回日本水環境学会年会、東北大学、2014 年 3 月 19 日
・三上一(元青森環境管理事務所)、角田均、「3D GIS による水質の可視化と分析(II) -岩木川水系の河質に及ぼした公共下道影響-」、第 48 回日本水環境学会年会、東北大学、2014 年 3 月 19 日
・小久保温、澁谷泰秀、吉村治正、渡部諭、「社会調査における郵送とマルチ・デバイス Web アプリケーションの比較」、平成 25 年度第 1 回青森大学総合研究所研究発表会、青森大学、2014 年 3 月 24 日
・小久保温、「全周パノラマ画像 WebGL / CSS 3D Transforms ビューアーの開発」、平成 25 年度第 4 回芸術科学会東北支部研究会 25-04-09、2014 年 3 月 29 日、日本大学工学部
・和島茂、角田均、「斜め写真の大気効果の自動除去」、日本写真測量学会平成 26 年度年次学術講演会、東京大学生産技術研究所、2014 年 5 月 22 日

[講演]

・小久保温、「情報技術とみらい」、八戸工業高校 進路講演会、2014 年 2 月 6 日

薬　学　部

[平成 25 年度第 1 回実務実習発表会]

2 月 13 日（木)、平成 25 年度第 1 回実務実習発表会を開催しました。

薬学部 5 年生は、病院と薬局において、それぞれ 11 週間、実際の調剤を体験しながら勉強します。本学では、青森県をはじめとする多くの病院や調剤薬局などの協力のもと実務実習を行っています。この実務実習が終了した後、大学において、実務体験の発表を行います。

今回、学生は、担任及び実習施設の指導薬剤師の先生方のアドバイスを受け、各自が学んできた内容を発表しました。

指導薬剤師の先生方や本学教員も出席する中で行われましたが、病院と薬局で経験を積んだだけあって、堂々とした発表ばかりでした。

（青森大学ホームページより）

[日本商工会議所主催　簿記検定試験]

平成 26 年 2 月 23 日（日）に実施された第 136 回日本商工会議所簿記検定試験において、今回薬学部より 1 名の合格者が出ました。

3 級合格者：　薬 24007　　小笠原大樹君

薬学専攻という小笠原大樹君は 70 点の高得点で見事合格した。

平成 25 年度内の検定試験はこれで全て終わったが、今後薬学部においても、将来調剤薬局開局に向けて簿記会計の必要性が高まればと期待している。

（文責：恵良　二郎）

[平成 25 年度第 2 回実務実習発表会]

4 月 17 日(木)、平成 25 年度第 2 回実務実習発表会を開催しました。

薬学部 5 年生は、病院と薬局において、それぞれ 11 週間、実際の調剤を体験しながら勉強します。本学では、青森県をはじめとする多くの病院や調剤薬局などの協力のもと実務実習を行っています。この実務実習が終了した後、大学において、実務体験の発表を行います。

（青森大学ホームページより）

[特別実習発表会]

5 月 9 日、6 年生対象の特別実習（「卒業研究」）発表会を行いました。

発表会は、9 時から始まり、途中休憩やお昼休みを挟んで、16 時過ぎまでの長丁場でした。

学生は、これまでに行ってきた研究成果を 1 人 6 分間の持ち時間で口頭発表し、会場からの質問にも真剣に答えていました。

（青森大学ホームページより）

[第 1 回青森大学薬学部生涯教育セミナー]

6 月 7 日（土）「高齢・多死社会を迎えた地域の医療について　－地域の皆さんと一緒につくる在宅医療・介護－」をテーマに、青森大学薬学部生涯教育セミナーを実施しました。

セミナーへの参加者は、薬剤師 37 名、一般 18 名、学生 72 名でした。

各演者の講演は、薬剤師のみならず、薬剤師を志す学生や一般来場者の方のためになる講演でした。

セミナーの最後には、演者全員が壇上で「総合討論」を行い、会場からの質問へも回答していました。

【各演者の講演】

「高齢・多死社会を迎えた地域の医療について」

　串田一樹（昭和薬科大学）

「地域完結型緩和ケアにおける薬局・薬剤師の役割」

　蘆野吉和（青森県立中央病院　医療管理監・緩和ケアセンター長）

「在宅がん患者の看取りと薬局薬剤師」

　白石丈也（有限会社メディックス白石　けや木薬局　開設者・管理薬剤師）

「かかりつけ薬局の薬剤師による在宅訪問活動と安心できる地域づくり」

　金田一成子（あおもり健康企画　常務取締役）

「青森県の在宅医療の現状　～西北五地域の薬局が直面している課題～」

　千葉佳友（五所川原保健所、青森大学薬学部 19 年度卒）

（青森大学ホームページより）

[第 34 回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップの開催]

本学において 6 月 14 日（土）、15 日（日）の 2 日間にわたり「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」が開催されました。このワークショップは、実務実習に必要な指導薬剤師の確保のみならず、社会や学生のニーズに応えることができる六年制薬剤師教育を実践するために厚生労働省の補助事業として始められたものですが、現在は薬学教育協議会の各地区調整機構が中心となり、大学及び薬剤師会、病院薬剤師会の連携で継続されています。当日の受講者は大学教員 3 名、保険薬局薬剤師 18 名、病院薬剤師 9 名の合計 30 名。

そのうち 4 名は青森大学卒業生であり、とても頼もしく思いました。

そしてディレクター代表青森県薬剤師会木村隆次会長のご挨拶を皮切りに2日間にわたるワークショップがスタートしました。各々経験年数、職場、活動地域の異なる受講者 10 名が1グループとなり「薬学教育」という共通の課題で長時間共に考える、日常とは異なる空間に緊張感が漂いました。しかしワークショップ2日目、何度もディスカッションを積み重ねながらしだいに連帯感が生まれ、心が熟成していく様子が感じ取れました。コンサルタントを務めて下さった世田谷区保険センター所長　中島宏昭先生より「医療人教育の改革」、薬学教育評価機構　戸部　敞先生より「薬学教育改革とワークショップの歩み」というテーマでご講演をいただいた後、参加者全員から一言づつ感想を述べてもらう時間を設けましたが、皆の実務実習に向ける熱い想いが止まらずマイクを握りしめ予定時間を大幅に延長してしまいました。最後に熊﨑学部長より修了書授与とディレクター挨拶をいただき、青大における熱い熱い2日間が無事終了いたしました。
第 34 回ワークショップ開催を通し、医療現場と大学の距離を縮め、医療人育成のための薬学教育に携わる者として共通認識をもつ必要性を実感いたしました。
いよいよ来年度新カリキュラムによる薬学教育が始まります。社会が求める質の高い医療を提供する薬剤師を輩出するためには、大学を含めた薬学関係者が協働して薬学教育に関わることがますます重要になってくるものと思われます。
最後になりましたが、このワークショップの運営等に協力頂いたすべての方々にこの場を借りてお礼申し上げます。（青森大学実務実習指導薬剤師養成ＷＳ委員長　小笠原　恵子）

[「薬用植物園・ハーブ園」での学外学習の実施]

6月 28 日（土)、薬学部1年生のキャリアデザインＩＡの早期体験学習の一環として、青森市農業指導センターに設置されている「薬用植物園・ハーブ園」にて学外学習を実施しました。
この施設は、青森市出身の元東大薬学部長であった石舘守三氏が監修され、県内でも有数の薬用植物園です。
薬用植物園には、約 70 アールの園内に、薬草 200 種、薬木 70 種、水生薬用植物 10 種を展示栽培しています。
また、ハーブ園では、面積約7アールの園内にラベンダー、タイム、ミント、セージなど約 110 種類のハーブを展示栽培しています。
学生 57 名を 6 班に分け、教員 6 名が引率し、説明しました。
学生たちは、薬学部の教員の説明に耳を傾け、質問をしていました。
「楽しかった」「勉強になった」「家の庭にもある」という声も聞こえてきました。
この体験見学を通して学生が薬用植物に興味を持ち、今後の関係教科の勉学の励みになることを期待したいものです。

（青森大学ホームページより）

[報告論文]

Yamazaki A, Kidachi Y, Yamaguchi M, Minokawa T. Larval mesenchyme cell specification in the primitive echinoid occurs independently of the double-negative gate. Development. 2014 Jun 12. pii: dev.104331. [Epub ahead of print]

Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Intracellular accumulation of structurally varied isothiocyanates correlates with inhibition of nitric oxide production in proinflammatory stimuli-activated tumorigenic macrophage-like cells. Bioorg Med Chem. 2014 Jan 1;22(1):440-6.

[学会発表など]

中田和一　「雪国における ICT 技術を活用したマルチモーダル・ビッグデータに関する
社会実験」（平成 25 年度国土交通省受託社会実験．あおもり ITS 推進研究会）

田嶋裕久、二つ森俊一、中田和一「ILS LOC の積雪障害の遮蔽フェンスによる改善法」
電子情報通信学会総合大会、2014 年 3 月 18 日、新潟大学

A.Kasai，W.Nakata，H.Makino，H,Takayuki；EFFORTS FOR DISASTER PREVENTION ITS IN SNOWY COLD REGIONS",20th ITS WORLD CONGRES TOKYO 2013,TOKYO INTERNATTIONAL FORUM, Technical/Scientific Sessions，17 Oct, 2013

[地域活動]

藤田　均：委員として次のとおり活動した。
林野庁東北森林管理局・地域森林計画区及び国有林の地域別の森林計画検討会委員、
青森県・青森県公共事業再評価等審議委員会委員、青森県下北半島ニホンザル保護管理対策協議会委員
三沢市・仏沼保全活用協議会委員

藤田　均：青森大学オープンカレッジの活動

青森大学オープンカレッジ副所長（平成 26 年 1 月から 3 月）、所長（4 月から 6 月）及び担当講師として、生涯学習教育事業である青森大学オープンカレッジ公開講座に携わった。具体的には一般社会人を対象に、市民大学講座、みちのく散歩みち、大自然トレッキング、スキー大学、春のスノーシュー歩きを主宰した。

中田和一：あおもり ITS 推進研究会，会長，平成 25 年度第 3 回（1 月 17 日），第 4 回（3 月 27 日），青森市福祉増進センター

青森市都市交通協議会，分科会委員，3 月 26 日，青森市福祉増進センター